

市民等との協働事業一覧
(令和2年度事業)

資料 2 - 4

令和2年度市民等との協働事業一覧

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規
1	企画部	秘書広報課	交流担当	青梅マラソン参加外国招待等選手受入れ事業	1	
2	市民安全部	市民安全課	市民相談係	行政書士による無料相談会	3	
3				不動産鑑定士による無料相談会	5	
4				不動産無料相談会	7	
5				日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス)の無料法律相談会	9	
6				相続税等無料相談会	11	
7				青梅市市民のくらし展	13	
8				土曜日無料法律相談	15	○
9				防災課	防災係	青梅市防災講演会
10	市民活動推進課	市民活動推進係	協働事業市民推進委員会	19		
11			お〜ちゃんフェスタ2020	21		
12			市民活動団体支援講座	23		
13			「おそきだより」の発行	25		
14			男女平等情報紙発行事業	27		
15			青梅市民センター	ネットたまぐーあそびば文化祭	29	
16			長淵市民センター	長淵市民センター運営協議会	31	
17				長淵地区文化祭	33	
18			大門市民センター	大門市民センター運営協議会	35	
19				文化展	37	
20				地域散歩	39	
21			梅郷市民センター	梅郷市民センター運営協議会	41	
22				梅郷市民センター文化祭	43	
23			沢井市民センター	沢井市民センター運営協議会	45	
24				三田地区総合文化祭	47	
25			小曾木市民センター	小曾木市民センター運営協議会	49	
26				小曾木地区文化祭	51	
27			成木市民センター	成木市民センター運営協議会	53	
28				成木地区文化祭	55	
29				東京ヒルクライムNARIKIステージ(自転車競技)	57	
30			東青梅市民センター	東青梅市民センター運営協議会	59	
31				東青梅市民センターコミュニティ文化祭	61	
32				第八支会ささえあいフェスティバル	63	
33			新町市民センター	新町市民センター運営協議会	65	
34				新町末広町地区市民文化祭	67	
35				おうめこどもエコクラブ共催事業	69	
36			河辺市民センター	河辺市民センター運営協議会	71	
37				河辺市民センター文化祭	73	
38			今井市民センター	今井市民センター運営協議会	75	
39				今井市民センター文化展	77	
40				市民ウォーキング	79	
41			環境部	環境政策課	管理係	おうめ環境フェスタ2020

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規		
42	環境部	環境政策課	管理係	おうめ環境ニュースの発行	83			
43				クールビズ運動	85			
44				みんなで打ち水！	87			
45				ウォームビズ運動	89			
46				エコドライブ運動	91			
47				みどりのカーテン事業	93			
48				ワクワク！ドキドキ！！水辺の探検隊	95			
49				多摩川まるごと遊び塾	97			
50				がんばれ！あゆっ子2020「稚鮎の放流と多摩川生物の生態系調査」	99			
51				第12回炭焼き体験と水辺の交流会	101			
52				親子魚釣り教室2020「知ってほしいな自然と魚」	103			
53				じゃぶじゃぶ川であそんじゃおー	105			
54				いかだであそぼう in 霞川	107			
55				お魚釣り	109			
56				飼い主のいない猫のための「里親会」	111			
57				動物愛護週間イベントinおうめ	113			
58				さくらねこ無料不妊手術事業	115			
59				清掃リサイクル課	ごみ減量推進係	「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	117	
60				公園緑地課	公園管理係	大塚山いこいの森ボランティア	119	
61						緑地管理ボランティア	121	
62	青梅の森保全プロジェクト(青梅の森保全事業)	123						
63	健康福祉部	高齢者支援課	地域支援係	青梅市見守り支援ネットワーク事業	125			
64			包括支援係	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	127			
65				認知症サポーター養成研修事業	129			
66				高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	131			
67		障がい者福祉課	認定サービス係	令和2年度 初級手話講習会	133			
68		健康課	健康推進係	第51回おうめ健康まつり	135			
69	子ども家庭部	子ども家庭支援課	支援係	青梅市ファミリー・サポート・センター事業	137			
70				子どもふれあいフェスタ2020	139			
71				あつまれ！0.1.2.3 ちびっこ☆ランド	141			
72		青少年担当	青梅市親子ふれあい綱引き大会	143				
73	経済スポーツ部	商工観光課	観光係	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	145			
74				梅の公園ガイドボランティア事業	147			
75		農林水産課	林務水産係	森林ボランティア育成講座	149			
76		スポーツ推進課	スポーツ推進係	第55回青梅マラソン大会	151			
77	都市整備部	住宅課	住宅政策係	青梅市住宅なんでも相談会	153			
78				青梅市定例住宅相談会	155			
79	教育部	指導室	指導係	学校教育ボランティア	157			
80		社会教育課	生涯学習推進係	生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2020～	159			
81				家庭教育講演会	161			
82		図書館担当		「この指とまれ！」朗読会	163			
83				中央図書館整架ボランティア	165			

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規
84	教育部	社会教育課	図書館担当	おはなしボランティア	167	
85		文化課	郷土博物館管理係	勝沼城・辛垣城御城印制作事業	169	
86	市民提案協働事業	子ども家庭支援課		親子の絆づくりプログラム 「きょうだいが生まれた！」(愛称:BP2プログラム)	173	
87		社会教育課 市民活動推進課(青梅市民センター)		ザ☆のどじまん	179	
88		社会教育課 公園緑地課		青梅のプレーパーク森もり♪あそぶ	185	

協働事業評価シート

(85事業)

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅マラソン参加外国招待等選手受入れ事業	担当課	秘書広報課 交流担当
------	----------------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和3年2月 場所: 第55回記念青梅マラソン大会	※新型コロナウイルス感染症による影響 4、影響あり(延期)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和58年2月)
(2) 事業の目的 国際交流の促進のため、青梅マラソン大会に参加する外国人招待選手等の受入れを、青梅・ボッパルト友好協会、青梅市日本中国友好協会と連携して行う。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 青梅マラソン大会に参加する外国人招待選手等に対する、おもてなしを通じて、更なる国際交流を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 新型コロナウイルスの影響により延期となった。	
(5) 事業経費(決算額) 延期のため、経費は発生していない。	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅・ボッパルト友好協会、青梅市日本中国友好協会 参加人数:	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 各友好協会が市民レベルでの交流を行っており結びつきも強いいため、外国人招待選手について青梅市との協働事業としている。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 来青までの事前調整、宿泊先の確保等 行政側: 大会へのエントリー、大会前日、当日の誘導等	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		
	(3) 協働の役割分担は適切だった		
	(4) 協働相手は適切だった		
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		
	(7) 事業実施は円滑になされた		
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		

(11) 協働による効果

市民側

行政側

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、早い段階での延期が決まっていたため、本事業に関する取り組みは行っていない。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

行政側

国外との交流となるため、新型コロナウイルスの感染状況を見極め、適切なタイミングで実施再開を目指す。市民主導で始まった事業であるため、実施を急ぐあまり、市が主導にならないよう、市民レベルの交流の再開を促す。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

6、その他(開催延期のため、情報提供なし。)

※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	行政書士による無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	--------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年10月7日(水) 午前10時から午後4時 場所: 市役所2階会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年10月)
(2) 事業の目的 一般市民への行政書士制度の普及および相談支援	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 無料相談会を開催し、行政書士制度の普及、浸透を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 行政書士による相続、不動産、成年後見などの無料相談	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 東京都行政書士会多摩西部支部 参加人数: 2人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 東京都行政書士会多摩西部支部からの要請による。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 相談員派遣、相談対応 行政側: 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

行政書士制度の普及・浸透を図り、相談支援ができた。

行政側

相続、遺言に関する相談を図れた。相談者数2人

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

無料相談会の開催により、行政書士制度のさらなる普及・浸透を図っていきたい。

行政側

行政書士制度の普及を図り、継続的に行政書士を活用した市民へ支援を行いたい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	不動産鑑定士による無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年4月、10月 場所: イオンモール日の出 祭事スペース	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成16年10月)
(2) 事業の目的 一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 相談時間内で概ね10名程度を目標とする。	
(4) 実施内容(実績値等) 不動産鑑定士による不動産に関する無料相談	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会 参加人数:	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会の要請による	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 相談員派遣、相談対応 行政側: 広報掲載、パンフレットの配置および配布	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図ることができる。

行政側

不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識や安全な取引の推進が図れる。今回は中止のため相談者数0人。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識の普及や安全な取引の推進向上に寄与したい。

行政側

安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

7、不要・特になし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	不動産無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	----------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年4月 場所: 市役所2階会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成16年10月)
(2) 事業の目的 不動産取引に伴う消費者の利益保護のため、不動産に関する知識の普及と安全な取引の推進向上を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 相談時間内で概ね10名程度を目標とする。	
(4) 実施内容(実績値等) 弁護士、税理士および全日本不動産協会東京都本部多摩西支部の相談員による不動産相談会	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 公益社団法人 全日本不動産協会東京都本部多摩西支部 参加人数:	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 公益社団法人全日本不動産協会東京都本部多摩西支部からの要請による	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 相談員派遣、相談対応 行政側: 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

消費者に対して不動産に関する知識の普及並びに不動産取引事故防止の徹底に努めることができる。

行政側

市民が抱えている不動産に関する諸問題の解決が図れる。今回は中止のため相談者数0人

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

無料相談会の開催により、不動産に関する知識の普及並びに不動産取引事故防止に努めていきたい。

行政側

安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

7、不要・特になし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部 (法テラス)の夜間無料法律相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	---	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年10月、12月 午後5時から午後8時10分 場所: 市役所2階会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年10月)
(2) 事業の目的 市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方を対象に、弁護士による夜間の無料法律相談会を実施する。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 無料法律相談会の開催。開催日ごと、5名まで先着順で受付を行う。	
(4) 実施内容(実績値等) 弁護士による無料法律相談会	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス多摩)、東京三弁護士会多摩支部 参加人数: 各回1人 計2人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 日本司法支援センター(法テラス)からの要望による	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 相談員派遣、相談対応 行政側: 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方の法律に関する相談に応えることができる。

行政側

市民への法律相談への機会をふやすことにより、市民生活での法的トラブルの解消が図れる。今年度は中止のため相談者数0人

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

無料法律相談の開催をし、より多くの方の相談に応じていきたい。

行政側

市民への法律相談の機会をふやすために開催したい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

7、不要・特になし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	相続税等無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	-----------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年1月21日(木) 午後1時から午後4時 場所: 市役所2階会議室	<b style="color: red;">※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成29年3月)
(2) 事業の目的 相続税等様々な税に関する無料相談会を実施する。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 相続税等の相談会の開催。12名まで先着順で受付を行う。	
(4) 実施内容(実績値等) 税理士による相続税等無料相談会	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 東京税理士会青梅支部 参加人数: 2人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 東京税理士会青梅支部からの要望による	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 相談員派遣、相談対応 行政側: 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

税に関する諸問題に関する相談に応えることできた。

行政側

相談を行うことにより、市民が抱えている税に関する諸問題の解決が図れた。相談者数9人

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

税相談の開催をし、より多くの方の相談に応じていきたい。

行政側

市民への税相談の機会をふやすために開催したい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市市民のくらし展	担当課	市民安全課市民相談係
------	------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年11月7日(土)・8日(日)午前10時から午後4時 場所: 永山公園グラウンド(青梅産業観光まつりに併設)	<b style="color: red;">※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成17年8月第1回実行委員会開催)	
(2) 事業の目的 実行委員会で決定した毎年異なるテーマに沿って、消費生活に関する知識や情報を発信し、1人1人が自立した消費者になるための啓発を行う。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 産業観光まつりの来場者に対し、生活の中で知ってもらいたい情報(消費者関係、行政関係)を展示、催し物等により発信する。	
(4) 実施内容(実績値等) 展示コーナー: パルシステム東京、コープみらい・みらいひろば青梅新町、実行委員会、ボランティア協力団体、人権・行政相談、交通安全・防犯・ちよこっと共済、食品ロス啓発、男女平等参画社会、自治会連合会、ごみの減量他、クイズ(中止のため0人)、消費者相談、消費者クイズ、食品衛生啓発、フードドライブ、アンケート(ラスク・サブレ配布)	
(5) 事業経費(決算額) 中止のため0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 「生活協同組合パルシステム東京」10人、「生活協同組合コープみらい みらいひろば青梅新町」14人、「都立青梅総合高等学校」14人、「都立多摩高等学校」、「都立青峰学園」 参加人数:	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成16年度まで消費生活展として実施していたが、婦人会団体がなくなったため、平成17年度からは「市民のくらし展」として、実行委員会を組織して開催している。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: くらし展実施企画・運営、啓発パネル等の作成、展示、説明 行政側: 実行委員会会議の設定、くらし展会場の総括、準備、整理	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

テーマに沿った展示等を行い、消費者についての情報発信や消費者啓発ができる。高校生ボランティアは、ウォークバルーン活動やクイズコーナー運営などの啓発活動を通して、消費者としての情報を学ぶ機会となる。

行政側

産業観光まつりに併設して実施しているので、多くの来場者に消費生活をはじめ人権・行政相談、自治会、ごみ減量、防犯、交通安全等について広く効果的な啓発活動ができる。また、集客のために行ったクイズ等で市内産野菜を利用するなど地産地消の推進を図ることができる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

東京牛乳(地産地消)を原料としているラスク等の配布は、来場アンケートの回答者に配布する形にし、アンケートを実施することで、くらし展についての感想等を聞くことができる。実行委員会として協力する団体が減少し、また協力団体の構成員も減少してきているため、くらし展の実施は負担が大きくなってきている。新しい協力団体の募集等が必要。

行政側

実行委員会の負担にならないように事務局も協力して実施する。構成員の減少等による本事業への負担を軽減するためにも、協力団体を増やす必要があるが、希望する団体がいないのが現状である。実施内容等の見直しも今後必要になってくると考える。また、高校生ボランティアでは、多摩高校は他のボランティアとして活動したため、協力体制が難しくなっている。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

7、不要・特になし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	土曜日無料法律相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和3年1月23日(土) 午後1時から午後4時 場所: 市役所2階会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成27年3月)
(2) 事業の目的 市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方を対象に、弁護士による土曜日の無料法律相談会を実施する。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 土曜日無料法律相談会の開催。12名まで先着順で受付を行う。	
(4) 実施内容(実績値等) 弁護士による無料法律相談会	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 東京三弁護士会多摩支部 参加人数: 2人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 東京弁護士会多摩支部からの要望	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 相談員派遣、相談対応 行政側: 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方の法律に関する相談に応えることできた。

行政側

市民への法律相談への機会をふやすことにより、市民生活での法的トラブルの解消が図れた。相談者数10人

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

無料法律相談の開催をし、より多くの方の相談に応じていきたい。

行政側

市民への法律相談の機会をふやすために開催したい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市防災講演会	担当課	防災課 防災係
------	----------	-----	---------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和3年1月17日(日) 場所： 青梅市役所	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期 (不明 H20年度から記録あり)	
(2) 事業の目的 1月15日から21日までの「防災とボランティア週間」に合わせて、防災に関する講演会を実施し、市民の防災知識の向上を図ること。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) より多く(300~400名)の住民参加と防災意識等の啓蒙・啓発	
(4) 実施内容(実績値等) なし	
(5) 事業経費(決算額) なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 青梅市自治会連合会 参加人数： なし	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 防災意識の向上と自治会活動の活性化および加入促進を図る。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 自治会員に対する周知活動 行政側： 市民、関係機関等への周知	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

事業を中止とした。

行政側

事業を中止とした。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

事業を中止とした。

行政側

事業を中止とした。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() 7、特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

中止のためなし

協働事業評価シート(表)

事業名称	協働事業市民推進委員会	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:5月11日(書面会議)、 11月2日(対面会議)、令和3年2月22日(書面会議) 場所:市役所会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 市の協働事業に対する意見や今後の協働のあり方等について市民の意見を求め、協働の推進を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民と行政が協働し青梅ならではのまちづくりを進めていく。	
(4) 実施内容(実績値等) 事業実施結果について意見をもらう。今後の協働のあり方等について意見をもらう。 年間4回の委員会開催予定が3回の開催となり、うち2回は書面会議となった。	
(5) 事業経費(決算額) 謝礼金90,000円(@10,000円×9人)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: NPO法人、自治会連合会、公募、ボランティア・市民活動センター 参加人数: 9人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市における市民活動団体等との協働事業の推進に関する指針	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 提案や意見の提示、意見交換、青梅市の協働事業推進についての評価 行政側: 会議の事務局、行政側として意見交換、今後の取り組みの検討	

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

各団体の現場の意見を行政に直接届けることにより、机上でない現実の施策へとつなげることができる。自治会活動での課題、市民活動での課題を表に出にくいところも、顔を合わせて場を作ることにより意見交換ができる場となっている。今年度は書面会議中心とはなったが、できることはやったと考える。

行政側

多様な団体からの推薦委員と公募委員からなる当委員会で協働事業への取り組みの報告や市の協働に対する意見交換を行った。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市民側からの意見をもとに市の会議への提言をまとめ協働事業結果の市民への展開を強める、協働事業評価シートに写真を添える形に変えるなど一歩一歩進んでいる感はある。
ただし、青梅市の10年後、20年後を意識し危機感を持って自治会や市民活動の変化を促すような面が感じられない。世界のSDGsを考えることも大切だが、市民による主体性を持った取り組みが現在以上に増すことが青梅市の持続性につながると考えるので、もっと委員会として深く考え、やれることはやるような気概を持ちたい。

行政側

具体的な課題を絞り検討していくことで、協働事業の課題解決や推進に反映していくことができると考える。今後は、それを各施策へ反映させていくことが課題である。具体的な課題を絞り検討していくことで、協働事業の課題解決や推進に反映していくことができると考える。事務局として会議の運営について調整し、実践できる方策を整理していきたい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

2、ホームページ

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	お〜ちゃんフェスタ2020	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	---------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和2年9月20日(日) 場所： 市役所西側駐車場および2階会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
1、単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業、市民が一体感を共有できる機会をつくる。地域や世代を超えた交流や発表の場をつくり、より一層コミュニティの活性化を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) フェスタを通し、ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業・市民が様々な形で交流することで、相互の理解を深め、地域の活性化につなげる。ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業等の活動紹介と展示、模擬店出店、バザー	
(4) 実施内容(実績値等) ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業等の活動紹介と展示、模擬店出店、バザー開催にむけての検討。中止とする会議の開催。	
(5) 事業経費(決算額)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 青梅市社会福祉協議会 参加人数：	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 以前は福祉団体が中心に「ふくし祭」として実施していたが、ボランティア・市民活動団体を含めた発表の場として実施していくこととなった	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 事業実施、広報活動(広報おうめ以外) 行政側： 作業実施のサポート、広報活動(広報おうめ)	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

令和2年度は中止したが、年に1回、様々な団体や施設、企業、市民等が交流できる場として効果があると考えられる。また、毎年被災地支援として募金等を継続的に行っている。

行政側

広報掲載・周知を行う。ボランティア団体の活動状況などについての把握、会場として市役所西側駐車場を提供することで、多くの出店等を確保できよう。また、広報おうめを活用し、周知を図るなど、市民へのフェスティバルのアピールができる。青梅ボランティア・市民活動センターの登録団体を含め、地域の団体の発表および交流の場をもう受けることができる。

市民側

新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した実施方法を検討する必要がある。

行政側

コロナ対策をはじめ、安全に開催する実施方法の検討。市民活動団体の紹介等の場としての充実を図っていく必要がある。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ

6、その他(青梅市社会福祉協議会だより)

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	市民活動団体支援講座	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和3年2月3日(水) 午前午後2回実施 ① 10時00分～2時間② 13時30分～2時間 場所： 市役所2階会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
1、単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 ① 職員の協働に対する意識の向上を図り、協働についてより実践的な考え方や方法、問題点等を学ぶ。 ② 市民活動団体と行政が協働への理解を深め、今後の市民協働、地域活動の活性化を図り、協働によるまちづくりを一層推進することを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民活動団体と行政が協働への理解を深め、今後の市民協働、地域活動の活性化を図り、協働によるまちづくりを一層推進する市民活動団体が安定した活動を行い、持続的に発展していくため協働事業推進員57人、市民活動団体等の方20人程度予定の合同講座を企画した。 各回40名想定	
(4) 実施内容(実績値等) 「協働の進め方」東京ボランティア・市民活動センター熊谷紀良氏 協働の事例をふまえて講義やグループワーク等	
(5) 事業経費(決算額)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 青梅ボランティア・市民活動センター 参加人数：	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 協働事業の担い手である各市民活動団体向けの研修を組みこむことになり、ボラセンとの協働を投げかけた	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 受付・広報 行政側： 企画・受付・運営・広報	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

今年度は中止となったが、例年、当センター登録団体等ボランティア・市民活動団体へ広く周知することが出来ている。

行政側

市民活動団体と行政が協働への理解を深め、今後の市民協働、地域活動の活性化を図り、協働によるまちづくりを一層推進すること

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

研修を通じて「協働」を学ぶことと共に、ボランティア・市民活動団体と行政担当職員との交流の場としていきたい。

行政側

研修の企画・実施について積極的な協働を期待したい。
コロナ禍での研修方法について、工夫して実施していく必要がある。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

7、特になし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	「おそきだより」の発行	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年7月、11月、令和3年3月 場所: 小曾木地区、小曾木市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
1、単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成24年9月)
(2) 事業の目的 おそきだよりを発行し、小曾木地域のイベントや課題の情報を共有し地域の一体性を高め、地域振興対策を図るため、おそきだよりの発行をする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 若年層から高齢者まで地域情報を得やすい状況を作る	
(4) 実施内容(実績値等) 6月、9月、12月、3月年間4回発行予定のところ、7月、11月、3月の3回発行 情報誌の企画立案、取材調査、編集、発行。企画、取材活動を通じた地域課題、動向の理解。	
(5) 事業経費(決算額) 48,028(印刷費) × 3回 = 144,084円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: おそきの学校と地域を考える会 参加人数: 40名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 市民提案協働事業申請により採択された事業	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 企画、情報収集、編集、発行、配布 行政側: 経費の負担、配布	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

地域課題を地域で共有し地域の一体性を高める効果は、紙媒体を使い、全戸配布にすることにより高齢者まで高まっています。「広報おうめ」に近い周知度を地域で確保しています。また、毎発行号をファイルし家庭に保存してくれているご家庭もかなりあります。地域が主体となりながら協働で行われる好事例となっていると考えています。

行政側

行政だけでは行えない市民の身近な情報や地域の課題を掲載することができ、市民目線で地域の状況を伝えることができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

コロナ禍による地域イベント等の減少がある中なので、年4回の発行予定を年3回に減少させたが、地域からは人と会えないので今まで以上に重要な地域情報源と言われました。イベント取材だけでなく、地域課題取材などを増加させることにより紙面を充実させ、年4回の発行としたい。

行政側

地域に関する新しい情報の発信と地域課題等を考えていっていただきたい。また、他地域への波及効果を期待したい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

2、ホームページ

6、その他(地域一斉メール、フェイスブック)

事業の様子(写真等)

編集会議の様子



協働事業評価シート(表)

事業名称	男女平等情報紙発行事業	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 毎年 場所： 青梅市役所会議室他	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年 4月)
(2) 事業の目的 男女平等情報紙を通じて市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深める。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めるため、男女平等情報紙を発行する。	
(4) 実施内容(実績値等) 情報紙の企画立案、取材調査、編集、発行(年2回)を行う。	
(5) 事業経費(決算額) 1,067,969円(印刷製本費608,597円、配送手数料394,372円、謝礼金60,000円、報償品費5,000円)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： NPO法人青梅子ども未来、青梅商工会議所、mamanicotto、市民一般公募(2人) 参加人数： 各団体1人ずつ3人+公募2人= 計5人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ できるだけ市民の声を反映した情報紙を発行し、市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めてもらうため	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 企画立案、情報収集、編集 行政側： 計画立案、情報収集、編集、発行	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	2

(11) 協働による効果

市民側

「市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深める」という目標において、協働による効果が行政側にあっても、市民側にはない。この目的だけであれば担当職員が実施すべきところを、情報と視野を拓くために市民の手を借りるのは有益だが、情報提供だけでなく企画立案・取材・調査・執筆・編集・校正まで市民側の作業負担が大きすぎるため、市民が安い人件費で使役されている感が否めない。市民側が発信したいことを発信できるかといえば、行政発行のものだからと多くの制限があり、市民側には益がない。

行政側

市民と協働で発行することにより、協働する市民のそれぞれの得意分野を生かすとともに、市民目線のわかりやすく読みやすい情報紙が発行できた。また男女平等参画にかかる意見交換の場としてもよい機会である。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

2年間関わってきて会議での行政職員側の発言のなさに課題を感じる。一番話し合いが必要な序盤の企画決定時に特に発言しないので、協力的な姿勢には到底見えず、市民側の負担感も大きく増す。本当に意見がないのか、やる気がないのか、あくまで市民発信という名目があるからなのか、それならば序盤の企画会議には職員は不必要。新しいものを生み出す会議では、発言しない人数が多いほど雰囲気が悪く良い会議ができない。今後の内容について、男女平等の意識を啓発するには日本はかなり後進国なので、市内や日本にはあまり発信すべき情報はなく、世界に目を向けてふだんの生活に活かせるような具体的な各国の情報を発信していった方が有益ではと感じる。

行政側

男女平等参画社会の実現を目指し、行政が発行する情報紙として、表記や表現に配慮しつつ、市民にとって身近でわかりやすい内容の情報紙を発行することが重要である。協働する市民側のライフスタイルに配慮した運営が必要である。今後の課題について等話し合える時間をもちたい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	ネッツたまぐーセンターあそびば文化祭	担当課	市民活動推進課青梅市民センター
------	--------------------	-----	-----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和2年11月28日・29日 場所： ネットたまぐーセンター	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年)
(2) 事業の目的 青梅市民センター文化祭からの継続事業 ネットたまぐーセンターを利用する自主グループによる作品展示、演技披露等を通じて、サークル活動を地域住民に紹介するとともに、ネットたまぐーセンターを交流の場として活用し、文化の輪を広げる	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) ネットたまぐーセンター利用自主グループの発表の場を設けるとともに、ネットたまぐーセンターを交流の場として活用することで、文化の輪を広げる機会とする	
(4) 実施内容(実績値等) ネットたまぐーセンター利用自主グループの作品展示、演技披露等を計画していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症により中止	
(5) 事業経費(決算額) 新型コロナウイルス感染症により中止のため、事業経費なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： ネットたまぐーセンターあそびば文化祭実行委員会 参加人数： 新型コロナウイルス感染症により中止	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ ネットたまぐーセンター利用自主グループの発表の場を設けるとともに、ネットたまぐーセンターを交流の場として活用することで、文化の輪を広げるため	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 年4回の実行委員会に参加し、文化祭の内容について協議を行う 文化祭の準備・撤収を主体的に行う 行政側： 実行委員会の事務局業務を行う	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

協働として実施することで、施設利用団体合同の発表の場を持つことができ、団体相互の交流を持つことが期待できる。
(令和2年度は新型コロナウイルス感染症により中止)

行政側

普段は貸館業務が主であるため、文化祭は施設利用団体と交流できるいい機会となる。
(令和2年度は新型コロナウイルス感染症により中止)

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

今後の開催には新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みの強化が必要と思われる。
文化祭が発表の場としてだけでなく、文化の輪を広げる「あそびば」となるよう取り組みを強化したい。

行政側

今後の開催には新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みの強化が必要と思われる。
ネットたまごセンターを交流の場として活用していくため、文化祭が施設利用団体の発表の場としての側面のみにならないよう、体験コーナーを多く設けるなど、文化の輪を広げる取り組みも強化したい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

⑦、不要・特になし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	長淵市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 第1回 令和2年7月17日 第2回 令和3年3月5日 (書面開催) 場所:	<p style="color: red; font-weight: bold;">※新型コロナウイルス感染症による影響</p> <p style="color: red;">3、影響あり(実施方法変更)</p>
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的 長淵市民センターの効果的な活用を検討する	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民センターの効果的な活用と運営について、地域の団体や市民が主体となって協議する(年2回)	
(4) 実施内容(実績値等) 市民センターの利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について	
(5) 事業経費(決算額) 長淵市民センター運営協議会委員謝礼金 90,000円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 第二支会(1)、二小(1)、青少対第二支会(1)、スポーツ推進委員(1)、青少年委員(1)、文化団体会員(2)、調布ことぶき大学(1)、公募委員(2) 参加人数: 10人(男性8名、女性2名)	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: センター運営全般について協議する 行政側: センター運営全般について協議する	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して市民センターの運営等に対し意見、助言等を素直に伝えることができる。

行政側

委員との意見交換を通して地域との相互理解に役立っていると同時に、市民センターにおける今後の運営へ反映することができる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターの効果的な活用についてについて考えていく機会にしたい。

行政側

運営協議会の意見等を尊重しながら対応していきたいが、施設の改修等の予算化必要なものは協議会の意見が反映されにくくなっている。また近年の協議会では報告がメインとなっており、議題等が形骸化している。委員との意見交換を通して地域との相互理解につとめ、市民センターにおける今後の運営へ反映する。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() ⑦、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

無し

協働事業評価シート(表)

事業名称	長淵地区文化祭	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	---------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年11月7日、11月8日 場所: 長淵市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和53年11月)
(2) 事業の目的 長淵市民センターを利用している自主グループおよび長淵地区において活動している個人や団体の発表の場、長淵地域の各種団体の出展により、地域コミュニティを推進し地域の活性化を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の発表の場等を設けるとともに、住民の親睦を図る機会とする。	
(4) 実施内容(実績値等) 長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の発表の場等を設けるとともに、住民の親睦を図る機会とする。	
(5) 事業経費(決算額) 支出額: 2,263円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 長淵地区文化祭実行委員会 参加人数: 0人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 市民センター利用団体および地域市民の発表の場創設	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 実行委員会での打合せ。文化祭会場等の設営および片付け。 行政側: 実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の提供。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

利用団体および地域団体・個人の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果がある。
(本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止とした。)

行政側

市民センターが身近に感じられる大きな要素と考える。
(本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止とした。)

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

発表の場所等のより良い会場づくり。

行政側

参加団体および入場者数の増加方法の検討。
コロナ過でも出来ることを模索していくのも大事との意見があり、今年度の長淵地区文化祭については展示のみの開催。密にならない展示の工夫や受付等の方法については、今後の実行委員会で詳細を決めていくこととなる。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

①、広報おうめ ②、ホームページ ③、行政メール ④、ツイッター ⑤、報道機関へのプレスリリース

⑥、その他(長淵市民センターだより) ⑦、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

無し

協働事業評価シート(表)

事業名称	大門市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 第1回(令和2年7月22日) 第2回(令和3年2月18日) 場所： 大門市民センター会議室	<b style="color: red;">※新型コロナウイルス感染症による影響 <b style="color: red;">3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的 地域の団体や市民センター利用団体が主体となった協議機関として、大門市民センターに置く機能や運営の仕方について協議し、市民センターの効果的な活用と運営を目指す。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 地域の団体や市民センター利用団体が主体となった協議機関として、大門市民センターに置く機能や運営の仕方について協議し、市民センターの効果的な活用と運営を目指す。	
(4) 実施内容(実績値等) 市民センターの在り方についてや大門市民センターの利用状況、住民票等の交付状況、文化展の開催等の行政との連絡や地域への情報発信等について。	
(5) 事業経費(決算額) 50千円(運営協議会謝礼金)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 第三支会、スポーツ推進委員、子供会育成会、防災対策委員会、霞老壮大学、小学校長、保育園園長、参加人数： 利用者団体、(各1名)、公募委員(2名)計10名	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 地域の特性や住民ニーズに応じた市民センター運営と地域の市民活動団体の拠点としての活用に向けたセンターの運営全般について提言をする。 行政側： 市民側からの提言をセンター運営に活用する。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

市民センターの効果的な活用とサービスの向上について意見交換ができた。

行政側

市民センターが地域に密着している関係から、市民の声が行政に反映された。
行政から地域へ向けたいろいろな情報の発信源として、市民センターが地域の拠点として有効な存在であった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

活発な発言ができるようお互いの信頼関係をより深める。

行政側

市民センターをよりよく利用してもらうために、協議会の意見を尊重して運営に努めていく。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() ⑦不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

無し

協働事業評価シート(表)

事業名称	大門市民センター文化展	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和2年11月14日、15日 場所： 大門市民センター体育館	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 大門市民センター利用団体、地域内小中学校および地域住民の活動の成果の発表の場とするとともに、地域住民に活動を紹介することで、市民センターを交流の場として、団体と住民との親睦の輪を広げる。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 利用団体の活動および地域住民の発表の場を設けるとともに来場者の親睦を図る機会とする。	
(4) 実施内容(実績値等) なし。	
(5) 事業経費(決算額) なし。	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 大門市民センター文化展実行委員会 参加人数： なし	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 利用団体の自主性の向上と活性化を図る。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 団体代表者が実行委員として会の運営に当たる。開催前日および最終日に行政と協働で会場設営・撤去等を行う。開催中は各団体が1時間交替で受付をする。 行政側： 実行委員会を開催して協議を行う。展示棟に必要な備品・消耗品を用意する。展示パネルの設営・撤去を行う。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

活動発表の機会があることで、多くの来場者に活動の成果を見てもらうことができる。

行政側

利用団体の活動内容を把握することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

地域住民に活動を発表する良い機会となることから、新規の**団体**への加入を促す活動を行う。

行政側

来場者を増やすための方法を検討する。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

①、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

⑥、その他(センターだより、自治会回覧板) 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	地域散歩	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和3年3月20日 場所： 霞地区	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 参加者同士の交流と親睦を図り、身近な地域の歴史を学ぶ。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 多くの市民の参加により、幅広い年齢層と交流し、親睦を深める。	
(4) 実施内容(実績値等) なし。	
(5) 事業経費(決算額) なし。	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 霞川くらしの楽校 参加人数： なし	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 大門地区(霞川流域)を活動拠点としていたので、事業を実施したい旨を相談したところ、協働相手と目的が合致したため。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 講師との連絡調整、事前協議、当日の引率 行政側： 事前協議、広報等での周知を参加者募集、当日の資料準備および引率	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったが、例年多くの参加者があり、リピータも多いことから、この事業を継続して開催することは意義があると考えます。

行政側

協働団体には、準備作業や関係者との調整を進めていたが、やむを得ず中止とした。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市民に活動を伝える機会となるので、より広い地域を対象として、今後も協働事業を行いたい。

行政側

テーマや場所を変えながら、大門地区を広く知ってもらえるように協働事業を実施していきたい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

①、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

⑥、その他(センターだより) 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	梅郷市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年9月28日(月)、令和3年3月11日(水) 場所: 梅郷市民センター会議室等	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的 梅郷市民センターの効果的な活用等について検討する。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民センターの効果的な活用と運営全般について意見を求めるため協議会を年2回開催する。	
(4) 実施内容(実績値等) 市民センターの在り方について、市民センター利用および事業実施状況、出張所関係業務状況、図書館の状況等、行政との連絡や地域への情報発信等について。	
(5) 事業経費(決算額) 梅郷市民センター経費(梅郷市民センター運営協議会委員謝礼金)45,000円 (1回目は@5,000円×9人、2回目は書面にて開催したため支出なし)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 第4支会、支少年対策梅郷地区委員会、青少年委員、スポーツ推進委員、5小PTA、青梅女性防火防災の会から各1名、利用団体2名、公募2名 参加人数: 10人(男性7人、女性3人)	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: センター運営全般について検討する。 行政側: 意見を市民センター運営に反映させるように努める。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

市民センターの運営状況や市政を間近で知ることができ、地域住民や利用者からの意見等を行政に伝えることができる。

行政側

地域住民や利用者からの意見を得る機会となり、市民センターの運営等について要望等を得ることができる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

意見を出してもセンターの独自事業も限られている。

行政側

当協議会は報告等がメインとなっており議題が形式化してきている。地域住民の意見・要望を聞き取り、市民センターの運営に反映させる。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() ⑦、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

行政側からの情報提供に対し、市民側は理解を深めている。

協働事業評価シート(表)

事業名称	梅郷市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和2年11月8日(日) 場所： 梅郷市民センター体育館	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和55年11月)
(2) 事業の目的 地域の伝統や特性を生かし、生涯にわたる地域住民の多様な学習機会の成果を展示することで、地域の交流を促進し地域社会における主体的活動の活性化を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 梅郷市民センター利用団体の発表の場を設けるとともに、地域住民の親睦を図る機会とする。	
(4) 実施内容(実績値等) 梅郷市民センター利用団体の作品展示、地域団体等の交流の場として設定 令和2年度はコロナウイルス感染症の影響により中止となった	
(5) 事業経費(決算額) 文化祭中止のため事業経費はなし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 梅郷地区総合文化祭実行委員会 参加人数： 0人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 梅郷市民センター利用団体の発表の場を提供してほしいとの提案	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 文化祭実行委員会での打ち合わせ、文化祭会場の設営および片付け、展示品の収集展示 行政側： 文化祭実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示に必要な物品の準備	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

日頃の活動成果発表の場、団体間親睦の場、地域住民との交流の場として効果がある

行政側

利用団体の活動成果発表の場等を作るうえで意見交換ができ効果がある

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

活動成果発表の場としてのより良い会場づくりを目指す

行政側

参加団体および入場者数の増加

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

- ①、広報おうめ ②、ホームページ ③、行政メール ④、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース 1、2、3、4
6、その他(センターだより) 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

利用団体の活動成果発表の場として多くの作品等を展示しており、地域住民に来場してもらっている。

協働事業評価シート(表)

事業名称	沢井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 第1回 令和2年9月11日 第2回 令和3年2月22日(書面開催) 場所： 沢井市民センター	<b style="color: red;">※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的 沢井市民センターの効果的な活用を検討するもの。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市の事務事業や地域団体事業等に対する意見や助言等を幅広く受けて沢井市民センターの運営に反映させる。	
(4) 実施内容(実績値等) 沢井市民センターの利用状況、施設修繕の状況、市主催事業および地域団体事業等についての実状を報告および協議等の実施。	
(5) 事業経費(決算額) 沢井市民センター経費(謝礼金) 決算額 50千円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：第5支会支会長(1)、自治会長(1)、スポーツ推進委員(1)、消防団分団長(1)、高齢者団体(1)、小学校PTA会長(1)、沢井市民センター利用団体代表(2)、公募委員(2)。委嘱委員10名。 参加人数：9月11日の出席者は10名、2月22日は新型コロナウイルス感染所の感染拡大に伴い書面開催。
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱の規定により沢井市民センターの効果的な活用を検討する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 地域活動を行う団体、市民の視点で沢井市民センターの運営に伴う各種事業等について様々な角度から意見、助言を行う。 行政側： 地域活動を行う団体、市民からの率直な意見、助言を受け協議し、沢井市民センターが実施する市の事務事業や、地域団体事業等への支援に対して可能な限り反映させる。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、協議の機会は少なくなりましたが、行政に対する意見、助言等を率直に伝えることができた。

行政側

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う影響はあったものの、市民からの率直な意見、助言等を受けて、沢井市民センターにおける今後の運営へ反映していく。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

新型コロナウイルス感染症の感染拡大収束の機には、市民としてもっと広い視点で議論を交わし、沢井市民センターの運営に積極的にかかわっていく。

行政側

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う影響により、直接市民からの意見、助言等を受け議論する機会を十分に確保できなかったが、今後もより良い沢井市民センターの運営へ向けて積極的に市民の意見、助言等をお聞きし活用を図っていく。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

①、広報おうめ ②、ホームページ ③、行政メール ④、ツイッター ⑤、報道機関へのプレスリリース

⑥、その他() ⑦、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

特に無し

協働事業評価シート(表)

事業名称	三田地区総合文化祭	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	-----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和2年11月8日(日) 場所： 沢井市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和54年11月)
(2) 事業の目的 地域住民等の文化意識の向上と地域の活性化を図る。また、出品、出演者等との開催協力などを通じて、住民相互のふれあいや、趣味、生きがい等の発見機会を提供する。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 来場者数700人の確保。作品出品および演技披露等を通じて住民相互の交流に成果を上げる。	
(4) 実施内容(実績値等) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止による開催中止のため実績無し。	
(5) 事業経費(決算額) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止による開催中止のため支出無し。	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 青梅市自治会連合会第5支会、清涼会(高齢者団体)、西東京農業協同組合二俣尾支店、沢井市民センター利用団体 参加人数： 開催中止のため無し	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 沢井市民センターを利用している各種団体等の作品・演技のほか、地域で栽培した農作物等の観賞および即売会等により多くの住民等がこの事業に参加するとともに、各種団体等の交流を広げる。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 共催者会議、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う開催中止の周知。 行政側： 共催者会議、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う開催中止の周知。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う開催中止により協働効果は得られなかった。

行政側

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う開催中止により協働効果は得られなかった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

新型コロナウイルス感染症の感染収束を考慮しつつ、次年度以降も協働開催を進める。

行政側

新型コロナウイルス感染症の感染収束を考慮しつつ、次年度以降も協働開催を進める。

また、市民センター利用団体は高齢者層が多く、若者世代も取り込めるよう内容の工夫が必要と考えており、特に子育て中の親子なども興味を示してくれるような催し物を取り入れる。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

①、広報おうめ ②、ホームページ ③、行政メール ④、ツイッター ⑤、報道機関へのプレスリリース

⑥、その他() ⑦、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う開催中止により特に無し。

協働事業評価シート(表)

事業名称	小曾木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 第1回 8月7日、第2回(書面会議)2月17日 場所: 小曾木市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年 4月)
(2) 事業の目的 小曾木市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議する。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 小曾木市民センターの運営を適正・円滑に行い、かつ効果的な活用を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 小曾木市民センターの利用状況、図書館の利用状況、令和2年度の予算の概要、市民センターの教室・文化祭等について	
(5) 事業経費(決算額) 運営協議会委員謝礼金 45,000円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 自治会連合会第6支会3人、青少年委員1名、民生委員1名、市民センター利用団体3名、公募委員2名 参加人数: 延べ 19人 (第1回目 9人 第2回目(書面会議) 10人)	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱による。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センターの運営と地域の市民活動団体等の拠点としての活用に向けて市民センターの運営全般について提言する。 行政側: 地域の発展に向けて市民センターのあり方について検討する。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

住民や施設利用者の意見や要望を伝えることができ、かつ、運営状況が掴めた。

行政側

第2回目は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため書面での会議としたが、委員から率直な意見や要望を聞くことができ、市民センターの運営に反映させることができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

行政のさらなる情報提供による利用者の率直な意見や要望の聞き取り。

行政側

当協議会は報告事項がメインとなり、運営が固定化してきている。委員からのさらなる意見や要望を聞き取り、市民センターの運営に反映させていく。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	小曾木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和2年11月14日、15日(予定) 場所： 小曾木市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年 4月)
(2) 事業の目的 市民センター利用団体や地域住民、小・中学生の活動の成果としての作品を展示すること等により、市民に紹介し、地区の連携、コミュニティの醸成を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	
(5) 事業経費(決算額)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 小曾木地区文化祭実行委員会 参加人数：	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 市民センターで活動中のサークルの発表の場や地域住民の作品発表の場を設ける。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 実行委員会での検討、作品の取りまとめ、文化祭当日の会場準備、作展示および片付け 行政側： 文化祭実行委員会の開催準備から文化祭の周知、会場の事前準備・片付け等	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

利用団体や地域住民の成果発表、相互理解、地域の親睦、交流を深める。

行政側

市民と行政が共同で文化祭を実施することで、市民にとってセンターがより身近なものになる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

高齢化等に伴う参加者の減少傾向。

行政側

あらたな取り組みを検討していく時期にきている。多くの方に参加いただけるよう努めていきたい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ ②、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

⑥、その他(センターだより掲載) 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	成木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 第1回令和2年10月6日開催 第2回令和3年3月(コロナウイルス感染拡大防止のため中止) 場所: 成木市民センター	<b style="color: red;">※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(H20年4月)
(2) 事業の目的 センターの運営を適正かつ円滑に行うため	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民センターの効果的な活用と事業活動の充実。	
(4) 実施内容(実績値等) センター施設の利用状況、センター主催の生涯学習事業の成果報告、センター予算の概要説明。	
(5) 事業経費(決算額) 市民センター運営協議会委員謝礼金 40,000円 (委員8人分)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 第7支会、支会体育振興会、支会防災対策委員会、成木地区教育環境等研究会 青少年対策成木地、区委員会、施設利用団体(スポーツ団体、文化団体)、公募委員 参加人数: 10人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 運営委員会設置要綱(平成20年4月1日)	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 地域市民の活動拠点として利用するため、センター運営の全般について提言を行う。 行政側: 地域の特性や住民のニーズに則したセンター運営を行うため。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

センターから発信される情報に傾注し、センターの在り方について意識するようになる。

行政側

センターの運営について、率直な意見や要望がより具体的に寄せられる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

懸案だったトイレ改修が、コロナ対策で解消されたので、コロナ対策を継続して行うようにされたい。

行政側

コロナ対策をしつつ、利用者の利便性を図る。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他()⑦、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	成木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年11月14.15日 場所: 成木市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成17年6月)
(2) 事業の目的 市民センター利用団体、地域住民、小・中学生の作品展示や利用団体の演奏等を発表して、多くの市民に披露することで参加者の励みとし、もって地区の連携とコミュニティの充実を図る	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 利用団体の活動支援と地域の活性化を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏等の紹介。小学校総合学習の成果発表、農産物の品評会および販売。	
(5) 事業経費(決算額) 0円(コロナ感染拡大防止のため中止)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 成木地区文化祭実行委員会 参加人数: 0人(中止のため)	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 団体からの提案	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 実行委員会の開催、会場準備、作品の展示と片付け 行政側: 開催準備から広報、会場の設営、運営、片付け	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

活動が評価されることにより、励みとなり、展示発表する側と見る側とのコミュニケーションが促される。

行政側

共同で開催することで、より良くコミュニケーションを取りながら、活動に興味を持ってもらい自らが活動する動機づけにされたい。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

より多くの参加者と見学者が集まれる様、参加方法や周知方法を工夫する。

行政側

地元の農産物の展示即売など含めた、文化祭を核とした地域のイベントして、住民の参加を促していく。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

⑥、その他(回覧 センターだより) 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	東京ヒルクライムNARIKIステージ(自転車競技)	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年5月31日 場所: 成木7丁日常盤林道	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年8月)
(2) 事業の目的 恵まれた自然環境を活用した健康づくりを目指す。また、恵まれた自然環境を保護する意識向上を図るため、地域と交流を図り一体感を深める。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 目標参加者数300人 参加選手と地域との親睦	
(4) 実施内容(実績値等) ヒルクライム(自転車)者競技 成木市民センターをスタートし、常盤林道終点をゴールとする。	
(5) 事業経費(決算額) 市予算計上 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 第7支会、(社)里仁会、KFCトライアスロンクラブ 参加人数: 0人(中止のため)	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 地域の一体化を図るため	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 開催準備、交通整理、受付業務、撤収作業 行政側: 準備品用意、交通整理	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

地域との連絡がスムーズに行われ、地域との関連を深めやすくする。

行政側

参加者と地域が一体となって事業を開催することで、相互の理解を深める。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

開催規模の増加に伴う受け入れ環境(施設の充実)の確保と周知の方法。

行政側

受入れ環境(施設の充実)の確保と競技自体の安全確保。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

⑥、その他(回覧) 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	東青梅市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	----------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 第1回:令和2年8月6日(木) 第2回:令和3年3月4日(木) 場所: 東青梅市民センター第1会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的 市民センターの効果的な運営や活用方法を検討する。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民センターの効果的な活用と運営全般を協議するため、運営協議会を年2回開催する。	
(4) 実施内容(実績値等) 東青梅市民センターの概要・利用状況、住民票等交付状況、予算・事業等について	
(5) 事業経費(決算額) 東青梅市民センター運営協議会委員謝礼金 45,000円 (1回目は@5,000円×9人、2回目は書面にて開催したため支出なし)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 第八支会1名、青梅市スポーツ推進委員1名、青少年対策第八支会地区委員会1名、東青梅老壮大学1名(※1)、センター利用団体からスポーツ団体1名、青梅女性防火防災の会第8支会1名、青梅市青少年委員1名、NPO法人青梅こども未来1名、公募委員2名 ※1: 東青梅老壮大学1名は第1回会議欠席 参加人数: 延べ9名 ※第2回は書面会議のため、参加人数として含めず。
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 市民センター運営のあり方を検討する。 行政側: 市民からの提言を市民センター運営に反映させるよう努力する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

行政に対し、利用者の視点から意見や要望を伝えることができた。

行政側

市民の代表から率直な意見を聞くことにより、市民センターの運営に反映することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

東青梅1丁目地内諸事業用地等利活用構想について、避難場所としての市民センターの役割や、ホールの形態など、利用者の関心が非常に高い。利用者の声を十分反映し、より使いやすいものとなるよう、今後の動きに注視していきたい。

行政側

利用者の視点で出された意見等を集約し、市民センターの運営に反映させる役割を果たしてきたが、最近では報告がメインとなり議題が形骸化してきているのが課題となっている。委員から率直な意見を聞くことにより、市民センターの運営に反映させていきたい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() ⑦、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	東青梅市民センターコミュニティ文化祭	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	--------------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和2年10月17日(土)、18日(日) 場所： 東青梅市民センター体育館	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和57年10月)	
(2) 事業の目的 市民センター利用者および地域団体などの文化活動の成果を発表する機会を設け、地域の文化活動の向上を図っていくこと。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民の文化活動の向上および地域住民相互の親睦を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 東青梅市民センター利用団体および一般公募等の作品の展示、演奏。	
(5) 事業経費(決算額) 中止のため事業経費はなし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 東青梅市民センター文化祭実行委員会 参加人数： 0人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 地域文化の向上および成果の発表の場として	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 実行委員会委員、各団体の作品選定および飾付、会場設営、団体内の連絡・調整、舞台運営の一部 行政側： 会場の確保、広報、作品公募、文化祭運営、実行委員会の開催、展示資材(パネル等)の確保	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

発表の場があることで、日々の活動の励みになっていると同時に、一つの事業を協力して実施することによって、利用者同士の交流が深められる。

行政側

事業を実施していく過程で、市民センター利用者との意見交換等を図ることができるため、日ごろの活動においても親しみやすい関係を築くことができる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

サークルの解散・高齢化等により参加団体が減ってきている。

行政側

参加団体が減少傾向にあるため、積極的に参加を呼び掛け、新たな参加団体の開拓も必要と思われる。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

- ①、広報おうめ ②、ホームページ(自治会連合) ③、行政メール ④、ツイッター ⑤、報道機関へのプレスリリース
 ⑥、その他(東青梅市民センターだより) ⑦、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	第八支会ささえあいフェスティバル	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	------------------	-----	----------------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所</p> <p>期間： 令和2年10月18日(日) ※作品展は10月17日(土)から</p> <p>場所： 東青梅市民センター</p>	<p style="color: red;">※新型コロナウイルス感染症による影響</p> <p style="color: red;">5、影響あり(中止)</p>
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成28年10月)
<p>(2) 事業の目的</p> <p>第八支会と第八支会関連団体および管内小中学校、保育園、ボランティア団体等と連携して、地域の自治会活動の活性化、見える自治会活動を図るとともに、東青梅市民センター文化祭と同時開催をすることにより地域の文化事業の充実を図る。</p>	
<p>(3) 事業の成果目標(数値目標等)</p> <p>1 新たな視点(小中学校・保育園との連携、地域活動団体の紹介)を通し、自治会活動の見直しおよびこれからの見える自治会活動につなげる。 2 来場者の増加を図り、文化祭を充実させる。(センター事業のPR、文化団体の活性化)</p>	
<p>(4) 実施内容(実績値等)</p> <p>1 小中学校児童生徒、保育園児、自治会員有志による作品の展示 2 青梅交通安全協会第八支部、青梅市青少年対策第八支会地区委員会、東青梅地区環境美化委員会の活動紹介および第八支会地域の安全を守る会と青梅警察署による防犯の呼びかけ 3 農産物の販売(地産地消) 4 障がい者支援団体・ボランティア団体・NPO法人の活動紹介および物品販売 5 演技披露</p>	
<p>(5) 事業経費(決算額)</p> <p>中止のため支出なし。</p>	

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態</p> <p>2、事業共催</p>	
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数</p> <p>団体名： 青梅市自治会連合会第八支会 参加人数： 0人</p>	
<p>(3) 協働の提案者</p> <p>1、行政からの提案</p>	
<p>(4) 協働の理由・きっかけ</p> <p>平成28年に第八支会が50周年を迎え、新たな視点での自治会活動を展開するため。来場者が減少していた東青梅市民センター文化祭の活性化の相乗効果を図るため。</p>	
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。</p> <p>1. 計画段階 その他の場合具体的に(</p>	
<p>(6) 役割分担</p> <p>市民側： 会場設営、小中学校・保育園・自治会員へ作品提供依頼、回覧による周知、フェスティバル運営、来場者整理、参加団体の支援、自治会加入促進活動、文化祭会場設営・撤去手伝い</p> <p>行政側： 会場の確保、市民活動・障がい者支援団体への参加の呼び掛けおよび調整、地域の底力発展事業助成金の申請・実績報告、ポスターの作成、予算管理・決算報告等</p>	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

自治会をはじめとした地域団体の活動内容を多くの来場者に周知することができる。

行政側

市民センター文化祭と同時開催することにより、相乗効果で文化祭来場者の増加が大きく期待できる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

この事業を継続していくことによって、地域団体へのさらなる理解を深め、自治会への加入促進につなげる。

行政側

新たな団体の参加について広く呼びかけ、賑わいのある事業としていく。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ ②、ホームページ(自治会連合) 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

⑥、その他(東青梅市民センターだより) 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	新町市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 第1回:令和2年8月13日(木) 第2回:令和3年3月4日(木)(書面決議) 場所: 新町市民センター会議室	<b style="color: red;">※新型コロナウイルス感染症による影響 <b style="color: red;">3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的 新町市民センターの適正かつ効果的な活用の検討	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 新町市民センターの利用利便性および利用率の向上を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 市民センターの利用状況、施設整備状況、センター実施事業等について報告・協議を行うとともに、センター文化祭の実施計画及び役割分担等について協議する。	
(5) 事業経費(決算額) 新町市民センター運営協議会委員謝礼金 95,000円(第1回 45,000円 第2回 50,000円)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅市自治会連合会第九支会2名、青少年対策新町地区委員会1名、青梅市スポーツ推進員1名、小学校PTA1名、中学校PTA1名、利用団体代表2名、市民公募2名 参加人数: 委員定数10名	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 市民センター運営協議会設置要綱	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 市民センターの運営について検討・協議するとともに、実行委員会の中心として、センター文化祭について企画運営を行う。 行政側: センター事業の実施状況について報告するとともに、必要な情報の提供に努め、運営協議会での協議検討結果を運営に生かす。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

地域住民や施設利用者の意見を行政に伝え、運営に生かすことができた。

行政側

市民センターの運営について、地域や利用団体等からの様々な意見や要望を聞くことにより、センター運営に資することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

これまで以上に利用しやすい市民センターとなるよう、意見要望していくとともに、具体的改善策などさらに積極的に関わっていくことが必要と思われる。

行政側

地域や利用団体からの意見集約とその反映は重要であるが、近年協議会がやや形式化してきていると考えられる。各市民センターごとの設置の必要性も含めて検討すべきである。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() ⑦、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	新町末広町地区市民文化祭	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	--------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年11月7日(土)、11月8日(日)(中止) 場所: 新町市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)	
(2) 事業の目的 新町市民センター利用団体などの文化活動の発表の場として、またふれあいの場として文化祭によりセンターに来館し、活動することにより、地域住民の交流による地域コミュニティの活性化を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 参加団体20団体、体育館入場者 2日間合計750人	
(4) 実施内容(実績値等) 中止によりなし。	
(5) 事業経費(決算額) 中止により0円。	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 新町末広町地区市民文化祭実行委員会 参加人数:	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 市民センターで活動中のサークルの発表の場を提供	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 実行委員会を組織し、主体的に文化祭の企画・運営を行う。 行政側: 実行委員会事務局として運営にかかわるとともに、文化祭の周知及び機材等の準備をする。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

各団体や地域住民が活動状況を発表する場として有効であるとともに、文化祭に参加することにより地域の交流が図られる。

行政側

地域住民の自主的な運営により、事業が柔軟かつ円滑に実施されている。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

一部マンネリ化している。地域の活性化のためにも参加者の範囲、規模の拡大が求められる。

行政側

参加者、来場者がより楽しめる文化祭とすべく、新規団体の開拓を行うとともに、新たな視点による実施等が求められる。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

6、その他 新町市民センターだより)

事業の様子(写真等)

中止のためなし。

協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめこどもエコクラブ共催事業	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	-----------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 中止 場所: 新町市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(20年4月)	
(2) 事業の目的 日本環境協会こどもエコクラブ登録団体のおうめこどもエコクラブと共催で市内の子どもたち及びその保護者を対象として講座を開設し、自然環境保護等について楽しく学ぶ場の提供を行う。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 年6回程度実施、参加者延べ120名	
(4) 実施内容(実績値等) 中止によりなし。	
(5) 事業経費(決算額) 中止により0円。	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: おうめこどもエコクラブ 参加人数:	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ おうめこどもエコクラブの新町市民センター利用による講座開催のための施設利用申し込みをきっかけに、年間を通じたこども向けのエコに対する講座を開催し、地域活動の活性化につなげる。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 体験講座、見学会等の企画、運営 行政側: 体験講座、見学会の周知、PR及び会場確保等	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

子どものころから自然環境保護を考える取り組みとして、体験学習を開催するにあたり、行政と共同することにより、会場確保がスムーズに行えたとともに、周知PRについてより広く周知することができた。

行政側

地域の子どもたちを中心に自然環境保護の大切さを勉強するとともに、他地域からの子ども保護者の参加も多く、センター事業の拡大にもつながっている。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

さらに楽しく学べる講座や見学会に取り組み、参加者の拡大を図るとともに、開催地域の拡大の検討も必要と思われる。

行政側

楽しく学べる場としての体験講座をさらに充実するとともに、エコや事前環境保護について地域の子どものたちや保護者に対しても広く周知を進めていくことが必要とされる。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ

6、その他 新町市民センターだより)

事業の様子(写真等)

中止のためなし。

協働事業評価シート(表)

事業名称	河辺市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:第1回 令和2年11月19日(木)、第2回 令和3年2月25日(火)(書面決議) 場所:河辺市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的 市民センターの効果的な活用方法の検討	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民センターの利用率の向上と効果的な活用	
(4) 実施内容(実績値等) 市民センターの利用状況、住民票等証明発行事務の状況、子育て広場の利用状況等に関する報告と意見交換	
(5) 事業経費(決算額) 河辺市民センター運営協議会委員謝礼金50,000円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:第10支会役員2人、高齢者クラブ代表1人、小学校PTA1人、地区青少年対策委員会1人、スポーツ推進委員1人、霞台第1住宅代表1人、民生児童委員1人、公募委員2人 計10人 参加人数: 延べ20人(第1回10人、第2回10人)
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 市民センターの効果的な活用方法の提案、協力 行政側: 協議会意見等にもとづき市民センターの運営に活用する。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

市民センターと地域、住民、市民センター利用者との交流・意見交換の場となり、意見等を行政に伝えることができた。

行政側

市民センターと地域、住民、市民センター利用者との交流・意見交換の場となり、意見等を得るうえで有益であった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

行政からの情報提供や委員の意見交換をとおして、市民センターに効果的な活用方法を検討する。

行政側

各協議会において意見交換は行っているが、同様のことの繰り返しとなっており、各市民センターで設置する必要性は薄いと考える。地域、住民、市民センター利用者との交流・意見交換をし、センター運営に反映するよう努めていく。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

2、ホームページ

事業の様子(写真等)

なし。

協働事業評価シート(表)

事業名称	河辺市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年10月24日(土)、10月25日(日)(中止) 場所: 河辺市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和61年11月)	
(2) 事業の目的 市民センターの利用団体の活動状況を広く市民に紹介し、活動への参加を促すとともに、地域住民の作品展示や舞台発表を行うことにより、河辺地域のコミュニティの醸成を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民センター利用団体の発表の場を設け、地域住民の親睦を図るとともに地域コミュニティの醸成を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 市民センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介および第10支会、青少年対策第10支会地区委員会、食育クラブ等の模擬店出店	
(5) 事業経費(決算額)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 河辺市民センター文化祭実行委員会 参加人数:	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 市民センターで活動中のサークルの発表の場を提供	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 会場準備、片付け。来場者受付、駐車場管理。 行政側: 参加団体呼びかけ。日程調整、会場確保。展示用資材、音響設備等の提供。舞台発表プログラム作成。許認可申請手続き。広報。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

市民センターを拠点とする団体や地域住民の発表の場ができること。

行政側

場を提供することにより、利用者とコミュニケーションが図られること。
市民センターの存在を参加団体や出品者を通じ、広く市民に周知することができること。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市民センター利用団体、地域住民がより多くの参加、発表をすること。
参加者の高齢化による力仕事を伴う準備、片付けが負担となってきた。

行政側

参加団体、地域住民参加が増加してきていること。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

6、その他(河辺市民センターだより)

事業の様子(写真等)

中止のためなし。

協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年7月9日、令和3年2月25日(書面) 場所: 今井市民センター会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的 今井市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議するため。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 今井市民センターの運営を適正・円滑に行いかつ効果的な活用を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 今井市民センターの利用状況および運営、令和2年度の予算の概要、今井市民センター文化展等について	
(5) 事業経費(決算額) 運営協議会委員謝礼金 45,000円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 自治会連合会第11支会2人、青少年対策第11支会地区委員会1人、スポーツ推進委員1人、女性防火防災の会第11支部1人、保育園園長1人、今井市民センター利用団体2人、公募委員2人 計10人 参加人数: 延べ9人(第1回 9人、第2回 書面会議)	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 今井市民センター運営協議会設置要綱による。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 市民センター運営のあり方を協議・検討する。 行政側: 必要な情報を提供し、協議・検討内容を市民センターの運営に活用する。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

地域住民や施設利用者からの意見や要望を行政に伝えることができた。特に今年度は、センターにおける新型コロナウイルス感染拡大防止対策について、提言するとともに、その対策について、さらに理解することができた。

行政側

市民センターのあり方等について、意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映することができた。特に今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、施設利用の際の手指消毒等のルールを説明し、センターにおける感染防止対策に理解が得られた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

行政のさらなる情報提供による利用者の率直な意見や要望の聞き取り

行政側

当協議会は報告がメインとなり議題が形骸化している部分がある。市民センターのあり方等について、地域の意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映するさせていく。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() ⑦、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター文化展	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年10月24日(土)、25日(日) 場所: 今井市民センター体育館、和室	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成13年11月)	
(2) 事業の目的 今井市民センター利用団体の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを地域市民の交流の場、ふれあいの場として活用し、親睦の輪を広げさらに深めることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。また、より多くの来場者数を目指す。(元年度来場者数535人)	
(4) 実施内容(実績値等) 新型コロナウイルス感染症の影響により中止	
(5) 事業経費(決算額) 新型コロナウイルス感染症の影響により中止のため、経費支出なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 今井市民センター文化展実行委員会 参加人数: 新型コロナウイルス感染症の影響により中止のため、参加者0人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 利用団体の活性化を図るため	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 実行委員会により会場の配置図等を作成し、自治会長の協力を得ながら、各団体で会場を設営する。 行政側: 会場の確保と展示用具等を提供する。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、本事業は、活動発表の機会を協働で行うことにより、より多くの市民に活動成果を見てもらうことができる。

行政側

新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、施設利用団体の活動の把握と交流が図れる事業であり、継続的に実施していくことが望ましいと考える。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

今年度は中止となったが、利用団体のより多くの参加

行政側

今年度は中止となったが、参加者へのより良い環境づくり

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() ⑦、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	市民ウォーキング	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和3年1月24日(日) 場所: 今井市民センター～霞川遊歩道～塩船観音寺	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年1月)
(2) 事業の目的 市民の体力増進、健康保持を目的に霞川遊歩道を中心に歩き、塩船観音寺で歴史に触れ、地域の連帯と異年齢層の交流と親睦を図ることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 体力増進、健康保持を目的として霞川遊歩道を塩船観音寺まで歩く。多くの市民が参加することにより、地域コミュニティの進展に繋げる。(100人程度の参加を目指す。)	
(4) 実施内容(実績値等) 新型コロナウイルス感染症の影響により中止	
(5) 事業経費(決算額) 経費支出なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅市自治会連合会第11支会 参加人数: 新型コロナウイルス感染症の影響により中止のため、参加者0人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 市民の体力増進、健康保持と合わせて地域の連帯と異年齢層の交流、親睦を図るため、第11支会を中心に参加者が集い、地域と住民相互の親睦を深める。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: コースの実踏、第11支会各種団体への参加要請、開会式・閉会式の進行、ウォーキング中の運営等 行政側: コースの検討と資料等の作成、消耗品の購入、準備品の用意等	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、本事業は、市民の体力増進や健康保持と合わせ、参加者相互の親睦が図れる。

行政側

新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、本事業は、行政と地域、地域間の親睦と協力を深めることができる事業であり、継続的に実施していくことが望ましいと考える。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

より多くの参加者の確保

行政側

より魅力ある新たなコースの検討

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() ⑦、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめ環境フェスタ2020	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年6月1日(月)～6月30日(火) 場所: 6/7、6/14市役所、6/1～6/30市庁舎ロビー、 6/1～6/30中央図書館	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年3月)
(2) 事業の目的 市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと	
(4) 実施内容(実績値等) 環境関連団体、企業、事業者、教育関係者等による展示、ワークショップなど	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: おうめ環境市民会議、おうめ環境フェスタ2020実行委員会、ボランティア等 参加人数:	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成20年度におうめ環境市民会議から提案を受け協働開始	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 事業原案、会場設営、展示物提供、ワークショップ・当日の運営全般、講師の選任・依頼等 行政側: 事業内容に関する協議と広報等のメディアによる募集、会場・事業予算の確保等	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	5
	(4) 協働相手は適切だった	3	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	2	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	1

(11) 協働による効果

市民側

コロナ禍の中、昨年に引き続き中止となった環境フェスタが、青梅市民の意識の中から消失することを危惧して、事前出展申し込み者の意志を尊重して、市役所1Fロビーにて、6月環境月間の1ヶ月間、活動内容のパネル展示が出来たことは誠に幸いだった。同様に環境ニュースの4、5面にも出展・出店希望者の紹介が掲載できた事も評価したい。

効果については、会場であるロビー奥のパネル展示スペースまでの誘導案内看板が小さく地味で、たどり着けない来庁者が多く、また、パネルを見た人の感想アンケート用紙がなく、ロビー受付に伝言された鑑賞者がおられた点は大きな反省点である。

行政側

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

スケジュール認識の甘さから、最後は押し押しの状態で、行政側からの提案を練り上げ、相互に修正する時間が不足し、各担当者に多大な迷惑をかけたことが反省点である。今年度は行政側に言われるまま中止に同意したが、福生市はコロナに負けず市民会議と協働で環境フェスタを実施していた。工夫次第で多くの市民に環境フェスタを広く認識させ、協賛させる方法があることに敬服した。青梅市も見習いたい。まず次年度に向けて7、8月には出展者に呼びかけ、第1回の反省点、改善点を行政側と話し合う場の設定を提案したい。

行政側

ホームページでの動画視聴等、人が集まらないかたちでの環境イベントも念頭に置きたい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめ環境ニュースの発行	担当課	環境政策課管理係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和3年3月15日発行 場所: 市民センター等の市内各施設、小・中学校	<p style="color: red; font-weight: bold;">※新型コロナウイルス感染症による影響</p> <p style="color: red;">1、影響なし</p>
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年6月)
(2) 事業の目的 市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する広報紙を発行し、市民啓発をすること。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民が、①青梅市の自然の豊かさ壊れやすさ、市民生活や産業活動の影響を理解する ②自然環境は水や空気の循環により山・川・海・様々な生物が関係しあい地球環境を形成している事を理解する ③気候変動を防ぎ、生物多様性の維持に寄与する生活スタイルを心掛ける	
(4) 実施内容(実績値等) 紙面の構成や内容について協議を行った。当年度は環境フェスタを実施していないので、紙面を増加し、フェスタ参加団体の紹介記事を掲載した。	
(5) 事業経費(決算額) 174,625円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: おうめ環境市民会議 参加人数: 10人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成19年度におうめ環境市民会議から提案を受け協働開始	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 記事の作成 行政側: 記事の作成、レイアウト原案、印刷業者との調整、印刷費等の予算確保	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	2	4
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	2	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	2
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3

(11) 協働による効果

市民側

市の予算縮小で令和元年度より発行部数を減らすことになったが、小中学校を通じた学童配布とのことで、学童への訴求効果は上がったことが予想される。

行政側

身近な環境問題について小・中学生にも考えてもらう機会になったと考える。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

事業目的の「市民感覚を取り入れた市民目線の広報」「市民啓発」という点の達成度が低く、行政からの発行物に近い内容で、啓発に繋がる問題意識の喚起の市民提案内容が大幅に削除された。また、内容検討の期間を増やし、市が「掲載不可」とする内容について理由を明らかにしてほしい。特に最終処分場に関しては多くの自治体が利用していることの掲載がされることがなく、啓発への動機が弱い。次に、持続的開発目標について、6/15付広報おうめに消費者相談室から掲載があったが、今後は市を挙げて取り上げることで環境ニュースの効果を高める必要がある。青梅市とその周辺は、自然環境と産業・くらしの関係を見るうえで絶好の教材。汚染も含め直視することから啓発ができ、良いアクションが生まれるゆりかごとなる。

行政側

親子を主な読者層と設定しているが、お子さんの年齢によっては難しいと思われる記事もあるため、内容や表現方法について慎重に検討していく必要がある。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	クールビズ運動	担当課	環境政策課管理係
------	---------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年5月1日～令和2年10月11日 場所: 青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業	<b style="color: red;">※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年 月)
(2) 事業の目的 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(4) 実施内容(実績値等) 青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。	
(5) 事業経費(決算額) 1,248円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体および趣旨賛同団体 参加人数:
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「クールビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: クールビズの実践 行政側: 企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。

行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。(会議の中での意見集約であり、市民側と同意見)

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

クールビズについては、周知されつつあると感じているが、市全体として取り組むべき内容であるため、今後も意識啓発のための事業を継続し、浸透に努めたい。

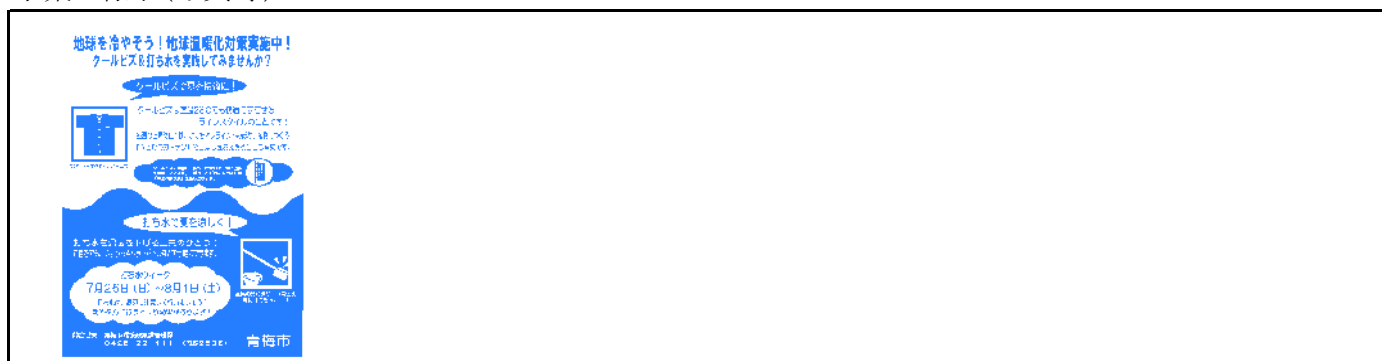
行政側

クールビズについては、周知されつつあると感じているが、市全体として取り組むべき内容であるため、今後も意識啓発のための事業を継続し、浸透に努めたい。(会議の中での意見集約であり、市民側と同意見)

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	みんなで打ち水！	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年7月26日～令和2年8月1日 場所: 青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年 月)
(2) 事業の目的 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(4) 実施内容(実績値等) 青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。	
(5) 事業経費(決算額) 0円(クールビズポスターに打ち水についても記載しているため、それを活用した。)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体および趣旨賛同団体 参加人数:	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「クールビズ」に取り組んだ。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 打ち水の実践 行政側: 周知活動(ポスター掲出、広報等のメディア展開)	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上を図りたい。

行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上を図りたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、一定の啓発はできたと考えるが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。

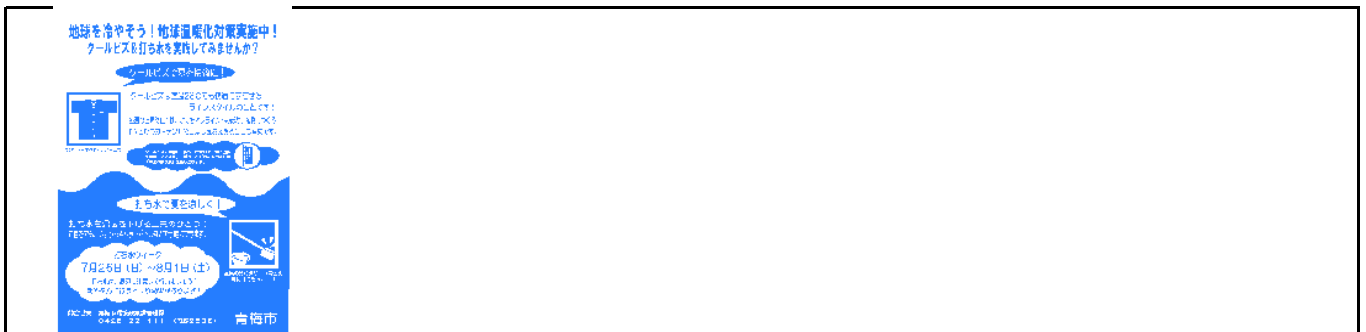
行政側

広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、一定の啓発はできたと考えるが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

2、ホームページ

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	ウォームビズ運動	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年11月1日～令和3年3月31日 場所: 青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年 月)
(2) 事業の目的 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(4) 実施内容(実績値等) 青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。	
(5) 事業経費(決算額) 1,248円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体および趣旨賛同団体 参加人数:	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「ウォームビズ」に取り組んだ。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: ウォームビズの実践 行政側: 企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとり環境意識向上のために周知啓発をはかる必要がある。

行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとり環境意識向上のために周知啓発をはかる必要がある。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

継続的な周知啓発が必要である。今後も啓発物品(卓上のぼり旗)やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。

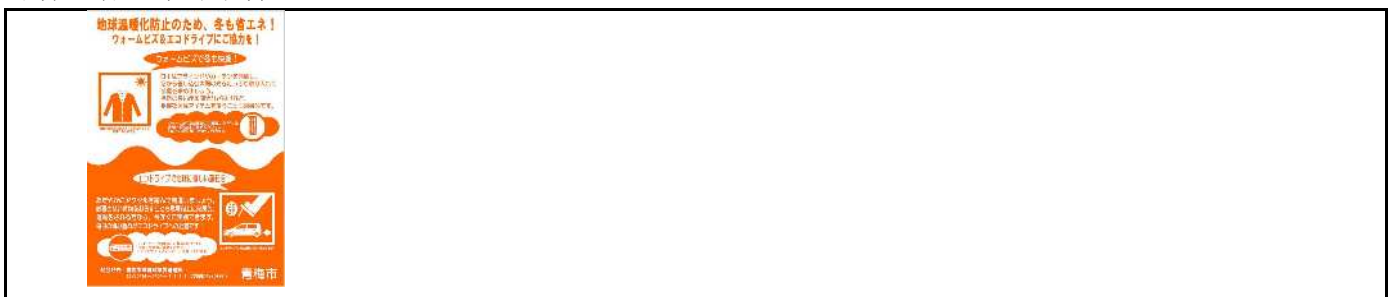
行政側

継続的な周知啓発が必要である。今後も啓発物品(卓上のぼり旗)やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1. 広報おうめ 2. ホームページ

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	エコドライブ運動	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年4月1日～令和3年3月31日 場所: 青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業	<b style="color: red;">※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年 月)
(2) 事業の目的 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(4) 実施内容(実績値等) 青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、保有車両のエコドライブを通じた省エネの取組を実施した。	
(5) 事業経費(決算額) 0円(ウォームビズ・エコドライブポスターにエコドライブについても記載しているため、それを活用した。)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体および趣旨賛同団体 参加人数:
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「エコドライブ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: エコドライブ運動の実践 行政側: 企画と啓発物品(ステッカー)の配布、広報等のメディア展開

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。エコドライブ運動は、温暖化対策だけではなく、マナーアップにもつながる運動である。市民1人ひとり環境意識向上に役立てたい。

行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。エコドライブ運動は、温暖化対策だけではなく、マナーアップにもつながる運動である。市民1人ひとり環境意識向上に役立てたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

エコドライブは決まった10項目の取組みがある。温暖化対策、マナーアップの両面から、さらなる周知啓発に努めたい。

行政側

エコドライブは決まった10項目の取組みがある。温暖化対策、マナーアップの両面から、さらなる周知啓発に努めたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

2、ホームページ

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	みどりのカーテン事業	担当課	環境政策課 管理係
------	------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年7月30日～令和2年11月25日 場所: 青梅市役所本庁舎	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年4月)
(2) 事業の目的 地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上	
(4) 実施内容(実績値等) 令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、例年実施している市内の一般家庭を対象とするみどりのカーテンモニターへのゴーヤの苗の配布を中止した。また、葉を上手に育成することが遮熱効果等を高めるため、配布時に育成方法の指導を実施している。令和2年度は一般家庭および事業所を対象に、みどりのカーテンコンテストを実施した。	
(5) 事業経費(決算額) 241,322円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅ガス株式会社、西東京農業協同組合 参加人数: 10人程度(審査員、表彰関係者等)	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅ガス㈱から環境・地域貢献協力の申し出を受け、行政側からみどりのカーテンコンテスト事業を提案、合意した。その後、青梅ガス㈱を介して西東京農業協同組合も加わり、三者の協働事業として実施した。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 副賞代の提供および審査協力 行政側: 周知活動(広報・ホームページ)および受付等の事務	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	2	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	2	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	2	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	2	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	2	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3

(11) 協働による効果

市民側

コロナ禍で市役所主導で運営を実施していただき、あまり協力することができずご迷惑をおかけしました。

行政側

みどりのカーテン事業全体を通して、行政側、市民側がそれぞれ広報することで、より多くの市民に、より広く周知できた。また、みどりのカーテンコンテストの実施は、みどりのカーテン育成の周知啓発につながったと考える。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため表彰式を実施できなかったが、受賞作品選定において、青梅ガス株式会社およびJA西東京の専門家の審査協力を得られたことが事業を充実させるものとなった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

①企画のマンネリ化 ②審査基準・副賞の見直し ③プロモーションの多様化 ④参加者からのレスポンス獲得
⑤協働実施主体間での事務調整・意思確認の不足 ⑥表彰式を【青梅ガスお客様感謝祭】で行うことの適性判断

行政側

みどりのカーテン事業全体を通して、参加者の固定化がみられるため、今後は募集の方法や内容を変更するなどして、新たにみどりのカーテンに取り組む家庭、団体を増やすよう検討したい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	ワクワク！ドキドキ！！水辺の探検隊 ～達人と一緒に楽しく安全な川遊び教室～	担当課	環境政策課管理係
------	--	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年8月23日(日) 場所: 市民球技場周辺の河原	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年9月)
(2) 事業の目的 多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。	
(4) 実施内容(実績値等) 川での安全な遊び方教室、魚のつかみどりから焼いて食べるまで、川の生き物捕獲等	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数: 15名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

(11) 協働による効果

市民側

必ずしも参加者を募集して対面でイベントをするのではなく、過去の水辺の探検隊の実施の様子をもとにして、子ども達に川遊びに有益な情報を与えることができるのなら、ビデオ作製などでも可能とアドバイスを頂けた。ただ、ビデオ作成時間、ビデオ作成ノウハウに難があり実現には至らなかった。

行政側

協働団体と協議の結果、参加者の安全の確保のため中止となった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

特にありません。

行政側

感染状況を鑑み、規模縮小やオンラインでの実施等、次年度以降の事業の在り方を検討する。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

7、特になし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	多摩川まるごと遊び塾	担当課	環境政策課管理係
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年7月26日(日) 場所: 市民球技場周辺の河原	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年9月)
(2) 事業の目的 多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育むことを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育むことを目的とする。	
(4) 実施内容(実績値等) 川での安全な遊び方教室、水棲生物の捕獲と観察、ライフジャケット等を用いた水辺の遊び、移動水族館(多摩川に棲む魚等の展示や解説)。	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数: 13名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

(11) 協働による効果

市民側
特にありません。

行政側
協働団体と協議の結果、参加者の安全の確保のため中止となった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側
特にありません。

行政側
感染状況を鑑み、規模縮小やオンラインでの実施等、次年度以降の事業の在り方を検討する。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

7、特になし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	がんばれ！あゆっ子2020 「稚鮎の放流と多摩川生物の生態系調査」	担当課	環境政策課管理係
------	--------------------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年5月17日(日) 場所: 釜の淵公園鮎美橋上流の河川敷	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年5月)
(2) 事業の目的 子どもたちに水辺に親んでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 子どもたちに水辺に親んでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(4) 実施内容(実績値等) 稚鮎の放流、多摩川の鮎の話、安全な川遊び紙芝居、ヤマメのつかみ取り	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: NPO法人奥多摩川友愛会 参加人数: 9名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	4

(11) 協働による効果

市民側

市民が注目している広報などでの募集をして頂き、且つ参加希望者のとりまとめもして頂き、非常にありがたい。行政との意思疎通が図られ、お互いの考えが市民に伝わると思う。

行政側

協働団体と協議の結果、参加者の安全の確保のため中止となった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

今年度はコロナの蔓延防止のため中止となったが次年度に対しての打ち合わせが不十分と思われる。予算の公平な使い方もあると思うので、水辺の協議会にて年間事業を協議すれば良いと思われる。

行政側

感染状況を鑑み、規模縮小やオンラインでの実施等、次年度以降の事業の在り方を検討する。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

7、特になし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	第12回炭焼き体験と水辺の交流会	担当課	環境政策課管理係
------	------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年8月19日(水) 場所: 奥多摩フィッシングセンター横、美しい多摩川フォーラム「御岳の森」	<p style="color: red; font-weight: bold;">※新型コロナウイルス感染症による影響</p> <p style="color: red;">5、影響あり(中止)</p>
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年8月)
(2) 事業の目的 炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(4) 実施内容(実績値等) 竹炭作り、魚のつかみ取り、ライフジャケット浮力体験等	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 美しい多摩川フォーラム 参加人数: 6名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、当該事業は平成23年度から開始した。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 事業のプランニング、NPO 法人日本エコクラブ等との調整および当日スタッフとして運営に当たる。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

(11) 協働による効果

市民側

新型コロナウイルス感染症拡大に鑑み、参加者および関係者の皆さまの健康と安全確保、同感染症防止の観点から中止としたが、青梅市と協議した結果であり、適切な判断であったと考える。

行政側

協働団体と協議の結果、参加者の安全の確保のため中止となった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

今回は中止としたが、新型コロナウイルス感染症収束の見通しは立っていないことから、今後はコロナ禍でもできることも具体的に検討していく。

行政側

感染状況を鑑み、規模縮小やオンラインでの実施等、次年度以降の事業の在り方を検討する。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

7、特になし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	親子魚釣り教室2020 「知ってほしいな自然と魚」	担当課	環境政策課管理係
------	------------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年10月18日(日) 場所: 奥多摩フィッシングセンター	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年10月)
(2) 事業の目的 子どもたちに水辺に親んでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 子どもたちに水辺に親んでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(4) 実施内容(実績値等) 溪流釣りの未経験の参加者に、釣りを通した自然体験をしてもらうと同時に、奥多摩川友愛会会員の講義指導を通じ、河川環境保護の重要性等も説明した。	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: NPO法人奥多摩川友愛会 参加人数: 9名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成21年度から協働事業としてスタートした。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	4

(11) 協働による効果

市民側

市民が注目している広報などでの募集をして頂き、且つ参加希望者のとりまとめもして頂き、非常にありがたい。行政との意思疎通が図られ、お互いの考えが市民に伝わると思う。

行政側

協働団体と協議の結果、参加者の安全の確保のため中止となった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

今年度はコロナの蔓延防止のため中止となったが次年度に対しての打ち合わせが不十分と思われる。予算の公平な使い方もあると思うので、水辺の協議会にて年間事業を協議すれば良いと思われる。

行政側

感染状況を鑑み、規模縮小やオンラインでの実施等、次年度以降の事業の在り方を検討する。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

7、特になし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	じゃぶじゃぶ川で遊んじゃおー	担当課	環境政策課管理係
------	----------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年度は実施なし 場所: 市内を流れる霞川・藤の木橋と五反田橋の間	<p style="color: red; font-weight: bold;">※新型コロナウイルス感染症による影響</p> <p style="color: red;">1、影響なし</p>
2、継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年9月)	
(2) 事業の目的 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらおう。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらおう。	
(4) 実施内容(実績値等) 身近な霞川をフィールドとした自然体験(水遊び、魚捕り、ザリガニ捕り、散策など)	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 霞川くらしの楽校 参加人数: 6名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成24年度から霞川に棲む生きものにスポットを当てた事業として提案があり、実施した。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	3	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

(11) 協働による効果

市民側

「広報おうめ」で広報ができるので、参加者募集が助かる。

行政側

協働団体と協議の結果、令和2年度は実施しないこととした。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

今年中止となったが、以前にも記した通り、例年安全を期するため、川岸の草刈りを西多摩建設事務所に依頼しているが、害虫の関係で付近の農家に影響がでることから、開催時期を決めるのに注意を要する。

行政側

感染状況を鑑み、規模縮小やオンラインでの実施等、次年度以降の事業の在り方を検討する。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

7、特になし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	いかだで遊ぼう in 霞川	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年9月5日(土) 場所: 霞川にかかる藤の木橋上流(藤橋1・2丁目、今井小の上流)	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年8月)
(2) 事業の目的 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(4) 実施内容(実績値等) 手作りいかだに乗って川下り	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 霞川くらしの楽校 参加人数: 6名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	3	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

(11) 協働による効果

市民側
「広報おうめ」で広報ができるので、参加者募集が助かる。

行政側
協働団体と協議の結果、参加者の安全の確保のため中止となった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側
今年中止となったが、以前にも記した通り、例年安全を期するため、川岸の草刈りを西多摩建設事務所に依頼しているが、害虫の関係で付近の農家に影響がでることから、開催時期を決めるのに注意を要する。

行政側
感染状況を鑑み、規模縮小やオンラインでの実施等、次年度以降の事業の在り方を検討する。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

7、特になし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	お魚釣り	担当課	環境政策課管理係
------	------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年度は実施なし 場所: 市内を流れる霞川・藤の木橋と城山橋の間	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成24年9月)	
(2) 事業の目的 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらおう。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらおう。	
(4) 実施内容(実績値等) 霞川での釣りの体験指導、釣れた魚の説明。	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 霞川くらしの楽校 参加人数: 6名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成24年度から霞川の新たな親水事業として提案があり、実施した。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	3	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

(11) 協働による効果

市民側
「広報おうめ」で広報ができるので、参加者募集が助かる。

行政側
協働団体と協議の結果、令和2年度は実施しないこととした。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側
今年中止となったが、以前にも記した通り、例年安全を期するため、川岸の草刈りを西多摩建設事務所に依頼しているが、害虫の関係で付近の農家に影響がでることから、開催時期を決めるのに注意を要する。

行政側
感染状況を鑑み、規模縮小やオンラインでの実施等、次年度以降の事業の在り方を検討する。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

7、特になし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	飼い主のいない猫のための「里親会」	担当課	環境政策課管理係
------	-------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年9月12日(土)、令和2年11月28日(土) 場所: 青梅市役所西側(正面玄関前)	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年5月)
(2) 事業の目的 責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。	
(4) 実施内容(実績値等) 例年ボランティア団体との協働事業として里親会を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は協働事業ではなく、青梅市後援での実施となった。	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: おうめ猫の会 参加人数: 9月、11月ともに10人程度	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成25年度から新たな事業として提案があった。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 当日の運営 行政側: 広報等による周知、会場準備	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

里親会開催の市民への周知が出来た。

行政側

ボランティア団体との協働事業により、飼い主のいない猫の里親探し事業を多くの市民にPRできたと思う。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市民へのアピールがたりないと思う。
来場者の数が少ない。

行政側

今後、里親会を他のイベントの会場内で開催することについて協働団体と協議し、来場者の増加を図りたい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	動物愛護週間イベント in おうめ	担当課	環境政策課管理係
------	-------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 中止 場所： 中止	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成24年11月)
(2) 事業の目的 隔年ごとに実施する動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示を通じて市民への動物愛護の啓発を行う。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 隔年ごとに実施する動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示を通じて市民への動物愛護の啓発を行う。	
(4) 実施内容(実績値等) 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業中止した。	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：おうめ猫の会 参加人数： 中止のためなし	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成24年度から新たな協働事業として提案があった。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 活動紹介等に関する展示ブースの設営 行政側： 広報等による周知、会場準備	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	1	1
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	1	1
	(3) 協働の役割分担は適切だった	1	1
	(4) 協働相手は適切だった	1	1
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側
事業中止のため効果測定不可

行政側
事業中止のため効果測定不可

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側
前年度の課題として講演会の参加者が少ない。PRが足りない。

行政側
令和2年度は事業中止となったが、隔年ごとに実施する動物愛護に関する講演会または映画会の内容については、市民がより関心を持てるものを選定する必要があると思われる。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

6.その他(令和2年度は事業中止のため実施なし)

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	さくらねこ無料不妊手術事業	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年4月1日(水)～令和3年1月31日(日) 場所: 市内各所	<b style="color: red;">※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年12月)
(2) 事業の目的 公益財団法人どうぶつ基金から受領した「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」を使用し、市内の飼い主のいない猫を捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 実施予定頭数 126頭	
(4) 実施内容(実績値等) 手術実施頭数 118頭	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: いのちを考える会・青梅 参加人数: —	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」行政枠ができることがわかったため。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 猫の捕獲、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す 行政側: 公益財団法人どうぶつ基金へ、「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3

(11) 協働による効果

市民側

市民の理解を得られやすく、活動も円滑に行うことができたと思う。

行政側

行政ではできない捕獲、不妊・去勢手術をボランティア団体とともに実施し続けたことにより、以前より飼い主のいない猫に関する市への相談が減った。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

「さくら猫無料不妊手術チケット」を広く市民に周知してもらい、捕獲活動を効率よく行なっていくために、今後は自治会とも連携していきたい。

行政側

市内で飼い主のいない猫に餌やりを行っている方に対しても、広報等を活用して継続して周知するよう努めたい。

1、広報おうめ 2、ホームページ

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和2年4月1日～令和3年3月31日 場所： 市内	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21 年 4 月)	
(2) 事業の目的 視覚障害者等のうち、点訳された「青梅市ごみ収集カレンダー」を必要とされる方のために、点字版を作製し配布する。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 希望者全員に配布する。	
(4) 実施内容(実績値等) 令和3年度版「青梅市ごみ収集カレンダー」の点字版の作製。視覚障害者等への周知、希望者への配布。実績3人。	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 青梅点訳グループ 参加人数： 6人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ ごみ収集カレンダーを点訳できるグループであったため。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 点字版の資料を作製し、行政側に提供する。 行政側： 広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へ配布する。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

決められた期限を守り、希望される方にカレンダーを届けることができた。

行政側

点訳を行うには専門的な知識も必要となる事から、点訳を専門とするグループとの協働は大いに効果がある。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

グループとしての役割は、果たせたと思う。
より多くの方に利用していただけるよう、関係部署の協力を仰ぎ、周知方法の改善を図りたい。

行政側

点訳グループおよび利用者の意見を聞き、さらに多くの必要とされる方に使用していただけるよう、周知の場の拡充を行う。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	大塚山いこいの森ボランティア	担当課	公園緑地課公園管理係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 6月および9月の第1日曜日 場所： 大塚山いこいの森(大塚山公園隣接地)	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期 (平成22年6月)
(2) 事業の目的 みどり豊かな環境と景観を形成し、快適な生活環境を創出するとともに市民の自然体験および学習の場として活用を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 予定：年間参加人数 延べ200人 実績：年間参加人数 0人	
(4) 実施内容(実績値等) 大塚山いこいの森内の清掃、除草、下草刈り作業等	
(5) 事業経費(決算額) 消耗品費 0円、食糧費 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： いこいの森を育てる会(近隣5自治会・4小PTA・青少対第8地区委員会) 参加人数： 0人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 地元からの要望にもとづき、針葉樹を伐採し、広葉樹化を図った際に、市民ボランティア等と協働して清掃、下草刈り等の管理作業を行うこととした。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 管理区分の清掃および下草刈り等(植栽育成に必要な作業) 行政側： 管理区分の作業計画および施設全体の管理計画の作成	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

いこいの森を第四小学校および地域住民の自然体験および学習の場となるよう良好な状態に保全することができ、作業を通じ地域の連帯感の醸成が図れる。

植栽樹木の生育状況も良好であり、森として形成されてきている。

行政側

ボランティアと協働で清掃および下草刈り等の管理作業が実施でき、快適な生活環境の創出と市民の自然体験や学習の場として提供することができる。また、作業には、家族連れの方も多く参加している状況から、いこいの森を身近な場所として捉えていただいていると感じられる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

作業日が関係団体の行事等に重なることがあったため、元年度からは開催日の固定化(6月、9月の第1日曜日)を図った。しかしながら、参加者が若干減少傾向にあるため、人数の継続確保対策が今後の課題である。

行政側

今後の開催には、新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みの強化が必要と思われる。
大塚山いこいの森ボランティアとの協働による管理により、森は良好な状態に保全されている。また、植栽樹木の生育状況も良好であり、今後は枝払い等の作業も必要となることから、剪定鋏や鋸等の作業道具を揃える必要がある。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

⑥、その他(回覧(中止)) 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	緑地管理ボランティア	担当課	公園緑地課 公園管理係
------	------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 毎月第3土曜日(8月を除く。) 場所：永山公園内ボランティア管理緑地ほか	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期 (平成15年6月)
(2) 事業の目的 下草刈りや間伐等の緑地管理作業等をボランティアで行うことにより、公園・緑地の大切さを実感しつつ、行政と一体となった公園・緑地の利用推進、緑の保全および育成、また、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 年間参加人数(予定延べ100人) ⇒ 実績:参加人数 0人	
(4) 実施内容(実績値等) 下草刈、除伐、枯損木伐採および萌芽更新等を目的とした間伐等	
(5) 事業経費(決算額) 講師報償金 0円 ・ 食糧費 0円 ・ 保険料 4,900円 合計 4,900円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 緑地管理ボランティア 参加人数： 0人(登録人数14人)	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 公園・緑地の大切さを実感しつつ、行政と一体となった公園・緑地の利用推進、緑の保全および育成、また、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ることを目的として制度を設置した。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 実施作業 行政側： 実施計画の策定	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

例年、永山公園内ボランティア管理緑地の管理作業を実施。雨天等により中止の月もあるが、下草刈りおよび除伐中心の作業を行う。作業日の関係もあり全区域を終わらすことはできないが、その成果が目に見えて確認できることにより、達成感を味わうことができたとともに、ボランティア会員の親睦が深まる。

行政側

永山公園内ボランティア管理緑地の管理作業を1年を通して実施することにより、ハイキングコースからの景観や解放的な空間が確保でき利用者へ快適な環境を提供できる。また、実施した成果が目の当たりに確認できるため、ボランティア活動に対する充実感を味わっていただけるものと考えている。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

会員の高齢化や毎回の参加者数が硬直化していることから、これから活動内容を充実していくには、新規の会員を取り込む必要がある。また、管理区域を有効に活用していただくための園路整備を行う必要があるが、除伐が済んでいる区域の下草刈り作業も同時に行っていかなければならない中、基盤となる除伐を早期に終了させていきたい。

行政側

登録者はある程度いるものの参加者が一定の人となっていることから、一度登録者の整理を行ったところ人数の減少がみられた。会員の高齢化も進んでいることから、会員募集(随時)を行い、若い世代の参加者を取り込む必要がある。

また、コロナ禍におけるボランティア活動についても検討していく。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

⑥、その他(回覧(中止)) 7、不要・特になし

※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅の森保全プロジェクト (青梅の森保全事業)	担当課	公園緑地課 緑化推進係
------	----------------------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年4月から令和3年3月 場所: 青梅の森	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年9月)
(2) 事業の目的 保全活動等を行う各種団体等と協働で青梅の森保全事業を行う。貴重な野生生物の生息の場として、市民と維持体験を行い、未来に引き継ぐ。そして、この地を市民が自然とふれあえる場や里山の仕組みを体験・学習する場、散策やハイキング等の気楽に利用できるレクリエーションの場として活用するため。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 青梅の森事業計画にもとづく管理、運営を行う。 動植物の観察、ウォーキング、保全活動等を通して多くの市民に体験してもらい保全活動への理解と環境等に対する意識の向上を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 青梅の森内の下草刈り、除伐、間伐、作業路補修、ヨシ抜き、ヨシ刈り、野鳥観察(一名)、植物観察(一名)、青梅第一小学校5年生総合学習(一名) ※()内は一般参加者	
(5) 事業経費(決算額) なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等 2、事業共催 3、事業協力 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 西多摩自然フォーラム、NPO法人青梅りんけん、日本野鳥の会奥多摩支部、森林ボランティア森守会、青梅の自然と環境を守る会、青梅の森ひさかきの会、青梅さとやま散歩の会 参加人数: 約50人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅の森の事業計画にもとづく運営組織を設置(7団体により構成:組織名=青梅の森保全プロジェクト)	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 ① 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 企画・運営 行政側: 事務局・運営	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	2
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	2
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	2	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

(11) 協働による効果

市民側

コロナ禍のため、柚保プロジェクトの会議が思うように開催出来なかった。このため意見交換の場が少なくなり、その分、話し合いに不十分な面が残ったが、書面開催等で各団体の活動状況はある程度確認できた。

行政側

コロナ渦において、協働活動は基本的に実施出来なかったが、各団体として、出来る範囲での保全活動等に努めてもらい、情報共有をすることで、青梅の森の現状を知ることができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

柚保プロジェクト構成団体の活動場所と協働作業の入山口は、主に四小口、風の子太陽の子広場、北谷津となっている。北ノ入から入山する活動場所は、風の子太陽の子広場を拠点として青梅の森で活動する団体が利用できるよう考えていただきたい。また、北谷津において、市民参加の協働事業等を行う際には、トイレの需要が必須となるため検討願いたい。

行政側

コロナ渦における、協働活動の推進方法を再確認し、集える場面が少ない中、各団体の繋がりを重視していきたい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

6、その他(各団体の会報誌等)

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市見守り支援ネットワーク事業	担当課	高齢者支援課地域支援係
------	------------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和2年4月1日～令和3年3月31日 場所： 市内一円	<p style="color: red; font-weight: bold;">※新型コロナウイルス感染症による影響</p> <p style="color: red;">1、影響なし</p>
2、継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年5月)	
(2) 事業の目的 市では、一人暮らし高齢者等の見守りを充実させるため、地域における見守りを強化し、何か異変を感じた際には市や関係機関などに連絡をいただき、市や関係機関では安否確認等を行い、市民の安心安全を図ることを目的としています。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民に安心安全を提供するとともに、孤立死、孤独死等の減少を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 市内で活動する事業者等が、事業活動に際して行う地域に住む高齢者等のゆるやかな見守りを実施することで異変を早期に発見し、市や関係機関と連携することで早期の対応を図る。	
(5) 事業経費(決算額) 見守り支援ネットワーク事業情報提供書郵送料 3,360円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 見守り協定締結事業者 参加人数： 41事業者	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 協定締結事業者は市内で事業を行っており、地域における高齢者等の社会的弱者と接する機会も多いため。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 地域でゆるやかな見守り活動を実施し、異変を感じた場合、市や関係機関に情報提供する。 行政側： 情報提供を受けた案件について、関係機関等と連携し安否確認を実施する。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

(11) 協働による効果

市民側

民生委員や地域において活動する事業者がゆるやかな見守り活動をすることで、見守られている側の高齢者等の地域住民も安心感があり、地域の中で安全安心に生活が営める環境が整う。

行政側

民間事業者等との協力により、行政だけでは困難であった地域密着による見守り活動について、民間事業者等が主体となり見守り活動を実施したことにより、地域力の強化を図ることができる。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

民生委員に依頼される業務が多くあり、見守り活動に取り組む時間が少なくなっている。
見守りが必要な対象者を精査し、より効果的な見守り活動を行うことが必要と考える。

行政側

地域住民との連携をさらに充実させていくことが重要であるため、民間事業者等のほか地域住民も含めた見守り体制の充実が求められている。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、 広報おうめ 2、 ホームページ 3、 行政メール 4、 ツイッター 5、 報道機関へのプレスリリース
6、その他() 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	高齢者クラブ健康づくりモデル事業	担当課	高齢者支援課 包括支援係
------	------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 場所：	<p style="text-align: center;">※新型コロナウイルス感染症による影響</p> <p>5、影響あり(中止)</p>
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年 月)
(2) 事業の目的 地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証するための健康づくりモデル事業を実施することにより、自発的な介護予防に資する組織の育成・支援を行うとともに地域における介護予防事業を普及推進する。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 高齢者の自発的な介護予防に資する組織の育成 地域における介護予防の普及啓発の推進	
(4) 実施内容(実績値等) 事業中止のため実績なし	
(5) 事業経費(決算額) 事業中止のため実績なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 高齢者クラブ 参加人数：	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成18年4月から介護保険法が改正され、介護予防の推進を図るため	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 会員への周知 行政側： 教室等の実施	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		
	(3) 協働の役割分担は適切だった		
	(4) 協働相手は適切だった		
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		
	(7) 事業実施は円滑になされた		
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された		
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		

(11) 協働による効果

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側
実施を希望する高齢者クラブが少ない。その理由としては、高齢者クラブ活動が活発であり、類似した活動もすでに行っているため。

行政側
・高齢者の健康づくりと自発的な介護予防の取り組みなどが目的となっているため、現在の対象者(高齢者クラブ)を見直していく必要がある、

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

なし

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	認知症サポーター養成研修事業	担当課	高齢者支援課包括支援係
------	----------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日 場所：指定場所	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年10月)	
(2) 事業の目的 認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりを目的としている。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 平成34年までにサポーター数を1万人を目標す。	
(4) 実施内容(実績値等) 令和2年度までのサポーター数5,954人	
(5) 事業経費(決算額) 令和2年度 テキスト代 歳出 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：全国キャラバンメイト連絡協議会 参加人数：青梅市登録キャラバンメイト 65人	
(3) 協働の提案者 1行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 都が企画立案および講師役(キャラバンメイト)を養成し、事業に賛同しサポーターを養成している。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側：認知症のことを正しく理解し、認知症の人やその家族の方を温かく見守り支援する応援者となる。 行政側：サポーター養成講座を養成するための講師(キャラバンメイト)を派遣する。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側:認知症という病気について理解し、対応のポイントや、どのように接すればいいのかを研修受講者に対して適切に伝えることができた。

行政側:認知症の人も地域で安心して暮らせる充実したまちづくりが形成される。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側:自治会や企業、高齢者を扱う事業所で広く開催し、理解を深めたい。

行政側:引き続き、市役所や学校にて講座を行い、さらなる受講者を開拓したい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ ②、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市虐待防止ネットワーク連絡会事務	担当課	高齢者支援課包括支援係
------	--------------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 年2回開催→新型コロナウイルス感染症の影響で1回 場所： 青梅市役所会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年8月)
(2) 事業の目的 養護者による高齢者虐待の防止、養護者による高齢者虐待を受けた高齢者の保護および養護者に対する支援を行うために、本市における関係機関、民間団体等との連携協力体制を整備する。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 高齢者虐待に関する全体的な構想や対応について協議や相談をし、課題を共有することで、解決に向けて多方面の専門職から意見を聴取する。	
(4) 実施内容(実績値等) 1高齢者虐待に関する情報交換ならびに関係機関の連携および協力の推進に関すること。2高齢者虐待に関する広報・啓発活動に関すること。3養護者に対する支援に関すること。4高齢者虐待に関する地域包括支援センターへの支援・助言等に関すること等	
(5) 事業経費(決算額) 委員報償金 11,500円(予算額23,000円)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 社会福祉協議会の代表、民生児童委員会合同協議会の代表、東京弁護士会の代表、ケアマネジャー連絡会の代表、人権擁護委員の代表、事業所の代表 参加人数： 11人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成18年4月「高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され地域において高齢者虐待ネットワークを構築するため	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 委員は、所属する団体の専門的な見地から地域包括支援センターに対して、高齢者虐待に関する適切な支援・助言等を行う。 行政側： 体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

ネットワークの構築により、早期に介入や対応ができたことで高齢者の生命の保持、安全を確保できた。

行政側

- ①委員の専門的な見地から意見、助言をしてもらったことで、予防、対応、権利擁護が適切に行えた。
 ②緊急一時保護、やむを得ない措置による入所、市長申立てによる成年後見制度をおこなった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

虐待の早期発見、通報の周知。見守りの強化。成年後見制度の周知。

行政側

虐待通報の徹底化、早期発見により、関係機関が直ちに介入する体制を今後も強化していき、被虐待者、養護者の支援に早く対応する。緊急一時保護先の確保体制を再構築する。高齢者虐待に関する市民への啓蒙活動のため、チラシの作成・配布を行う。

情報提供の方法(1.広報おうり 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうり 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	令和2年度 初級手話講習会	担当課	障がい者福祉課 認定サービス係
------	---------------	-----	-----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年9月4日～令和3年3月26日(計18回) 場所: 青梅市福祉センター等	※新型コロナウイルス感染症による影響 4、影響あり(延期)
1、単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 手話を学ぶことによって、福祉に対する関心を高め、聴覚障害者の社会参加を推進すること。手話による日常会話の技術を習得する。「聴覚障害者」の理解と啓発を促進する。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 初級手話講習会終了後、中級手話講習会(定員30人)に移行し、より学びを深め、手話サークル等に属し活動することで、聴覚障害者の社会参加等に寄与していく。	
(4) 実施内容(実績値等) 初級手話講習会参加者16人。1回1時間30分、全33回の内容を、新型コロナウイルス感染症の影響により、1回2時間、回数を全25回で計画したが、再度の緊急事態宣言発令のため、令和2年度は18回のみ実施した。	
(5) 事業経費(決算額) 136,820円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅市聴覚障害者協会 参加人数: ろう講師2名 健アシスタント2名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市聴覚障害者協会の事業として実施されていたが、従前より協力依頼があったため。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 講習会の運営 行政側: 会場の確保・広報および参加申し込み窓口・講師報償金の助成	

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

障害者差別解消法の施行に伴い、より多くの市民に手話を学んでもらい、聴覚障害者への理解を広めるために「手話は言語」であることを理解していただき嬉しく思います。
 協働事業のお陰で手話講習会会場の予約手続きや透明マスク支援などを行っていただき、全25回の手話講習会をスムーズに行うことが出来たことを感謝しております。
 今後も聴覚障害者の社会参加促進のために手話講習会を継続していきたいです。

行政側

初級講座、中級講座を隔年で実施し、初級を終了した方が、中級コースへ継続され、手話サークルに入会したり、地域密着した活動につながるなど、聴覚障害者のコミュニケーション支援の担い手養成の役割を担っている。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

令和2年度中級講習会を実施出来た事に感謝申し上げます。
 更に聴覚障害者とのコミュニケーションを深めることを目的として行なっていきます。
 新型コロナウイルス感染の影響を受け、今後も休講や延期のため会場の予約手続きなどもあると思われます。
 ご協力、ご対応を宜しくお願いします。

行政側

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、開催時期の延期があり、参加者が減少してしまった。開始時期が遅れたため、1回あたりの内容を増やしていただく等の対応をとっていただいた。また、手話において大切な口形が見えるよう、透明なマスクを取り入れ、コロナ禍においても可能な内容になった。令和3年度においても、協力し、コロナ禍による日程変更等に対応して事業の継続をしていきたい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

① 広報おうめ 2、ホームページ

6、その他() 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	第51回健康まつり	担当課	健康課 健康推進係
------	-----------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和3年5月24日 場所: 青梅市役所	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和45年 月)
(2) 事業の目的 健康に関する正しい知識や情報の提供など、健康づくりの普及啓発の機会とし、健康についての認識と自覚の高揚を図ることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 自分の健康は自分で守るという自覚をもって健康づくりに取り組むためには、保健衛生に関する知識が必要である。青梅健康まつりにおいて医療関係者による保健衛生知識の普及啓発を行い、健康に対する意識を向上させ、より効率的に市民の健康づくりを促進させること。	
(4) 実施内容(実績値等) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 【共済】青梅市三師会 【協賛】青梅市薬業界、青梅市接骨委員会、薬物乱用防止推進青梅・奥多摩地区協議会、西多摩地区保護司会青梅分区、西東京農業協同組合、青梅市民生児童委員合同協議会、他 参加人数:	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 不明	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(不明	
(6) 役割分担 市民側: 医療関係者等の立場から健康づくりに関する専門知識を提供する。 行政側: 健康づくりに関する情報を提供し保険衛生知識の普及啓発を図る。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

専門的な立場からの、健康づくりに関する情報の提供。

行政側

健康づくりに関する情報提供を行い、保健衛生知識の普及啓発を図る。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

来場者の健康状態を把握・分析。健康づくりに関する意識向上が図れるよう検討していきたい。

行政側

来場者がより高い満足度が得られるよう医師等専門的知識を有する者と協働し、毎年度事業内容の見直しを図る。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

①、広報おうめ(中止) ②、ホームページ(中止) 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市ファミリー・サポート・センター事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	----------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 通年(事務局は平日開設) 場所： 利用会員の要望する場所(事務局は、東青梅センタービル3階)	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年10月)
(2) 事業の目的 子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 育児の援助を受けたい家庭に対し、育児の援助を行いたい有償ボランティアが活動を行うことにより、地域で支え合える子育て支援となる。	
(4) 実施内容(実績値等) 子育て支援を求める者(利用会員)と子育てを支援する(提供会員)による会員制の有償ボランティア活動。東青梅センタービルにNPO法人への委託方式で事務局を設け、会員の募集、講習、コーディネートを行う。 (会員数 842人 利用件数 790件)	
(5) 事業経費(決算額) 7,449,453円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： NPO法人青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 2名(事務局に係る人数)	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 子育て支援政策として、運営等実績のあるNPO法人との協働が望ましいと考え、当該事業にふさわしい団体であったため。なお、当該事業は、市民による有償ボランティア活動であり、その意味では、事業そのものが会員(協働)事業である。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 会員：相互援助活動および有償ボランティア活動としての事業実施 NPO法人：事務局としての運営管理および会員間のコーディネート 行政側： 体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

地域のNPO法人の特性を活かし、子育て家庭の様々な実情に沿った支援ができるように会員間のコーディネートには最大限の配慮をした。提供会員の募集やイベントへの集客のための周知活動も積極的にを行い、成果が得られた。

行政側

事業実施により、子育て家庭への支援の充実が図られた。また、事業実施実績のあるNPO法人に事業委託することによりスムーズな運営ができた。提供・利用会員に丁寧な対応をしてもらい大きなトラブルなどなく事業が遂行された。周知活動も、協働団体が得意とする子どものための楽しいイベントを行うことで、多数の子育て世代を集客することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

事業の周知についてはまだまだ十分でなく、支援を必要としている子育て家庭がある。引き続き行政側とは協力し、会員数の増加に向けての周知活動を積極的に行っていききたい。提供会員の高齢化に伴う可動人員の減少について、更なる会員の募集活動に力を入れる。

行政側

子育て家庭の支援の充実を図るために、今後も会員の拡大、制度利用者増加に向けた周知方法について検討しより効果的な方策を行っていききたい。近年利用件数が減少しているので、特に利用件数の増加に向けた対策について積極的に講じていききたい。また、提供会員についても、新規会員の加入をすすめ、事業継続に問題が生じないようにする。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ

6、その他(ポスター、パンフレット、自治会回覧)

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	子どもふれあいフェスタ2020	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和3年2月7日から14日まで 場所： ー	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
1、単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 子育て支援・児童の健全育成	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 子どもたちに、人とのふれあいや文化的体験を通じて豊かな感性を育む機会を提供する。コロナ禍で集まることが、できないため、動画配信等で実施し、多くの方に視聴してもらおう。	
(4) 実施内容(実績値等) 動画配信およびZoomでの茶話会やプログラミング教室 動画視聴回数4,085回	
(5) 事業経費(決算額) 80,000円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 子どもふれあいフェスタ2020実行委員会 参加人数： 実行委員参加人数14名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 市内子育て関連NPO法人を中心に子育て中の親子と小・中学生等を対象に子育てを支援し、ともに楽しめるフェスティバルを実施する。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 市内NPO法人を中心に実行委員会形式にて企画・運営をする。 行政側： 補助金の交付とともに、企画段階からオブザーバーとして実行委員会に加わっている。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

市民の実行委員団体が前年度の2団体から4団体に増え、子ども家庭支援課、社会教育課、市民活動推進課、ボランティア市民活動センターと共に協力し創り上げていこうとしましたが、コロナ禍に伴い従来の取り組みが出来なくなり、集まって触れ合う事の出来ない状況だからこそ、「どうしたら取り組むことができるのか」と話し合いを重ね、各団体で趣向を凝らし、動画作成・配信、オンライン講座等に挑戦し、開催することができた。

行政側

従来の集会形式での実施が、コロナ禍において、不可能なため、オンラインでの開催となった。初めての試みであったが、事業を中止することなく、実施できた。実行委員会の構成団体がそれぞれの分野で、情報発信、オンライン講座等を実施するにあたり、市ホームページでは、動画サイトへのリンクを掲載するなど、周知をおこなった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

今回はオンラインでの開催となったが、次年度以降、従来の対面での実施の際は、前回同様以上の予算確保が望ましい。又、対面実施が難しく、オンライン開催等の際も内容を充実させるため、同額程度の予算執行を希望したい。オンライン開催でのよさも確認できたが、従来の目的である「つどい・つくる・あそぶ」の大切さを再確認できたので、今後、どちらを行うにしても、最大限の力を発揮できるように、取り組んでいく。

行政側

短期的には、集会形式での実施が難しいことが予想されるので、それに対応した準備を進める。従来の開催方法が可能になった場合は、補助金の逡減により、事業予算の減少にどのように対応すかが課題となる。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ

6、その他(チラシ配布、子育てアプリ、構成団体のホームページ)

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	あつまれ！0・1・2・3 ちびっこ☆ランド	担当課	子ども家庭支援課支援係
------	-----------------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和3年3月7日(日) 場所： 青梅市総合体育館	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成31年3月)
(2) 事業の目的 子育てに関するイベントを通して、子どもの知性や感性を育て、保護者同士が交流を通じて互いの子育てに関する悩みや情報を共有できる場とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 乳幼児向けの体験型イベントを実施する。	
(4) 実施内容(実績値等) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	
(5) 事業経費(決算額) 3,000円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：特定非営利活動法人青梅こども未来 参加人数： 1人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 団体からの提案	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 企画、当日の指導・運営 行政側： 周知、申込受付、会場・備品の準備	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

前年、コロナ禍において実施した実績があり好評を得た同じ講師での企画が、緊急事態宣言の延長のため開催不可能になった。この状況の中で対象の乳幼児親子が求めていること、講師の伝えたいことを橋渡しする貴重な機会は、今後ますます求められることと思う。

行政側

従前から本事業の企画・運営に実績のある団体と協働で実施することで、参加した乳幼児とその保護者にとって有意義なイベントにすることができると思う。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

今後、従来の形式での開催は難しくなるが、コロナ禍で子育てをしている対象世帯の親子にとって、人とのつながりや実際に五感を通して体験する機会の重要度は増しているため、オンラインを含めて開催方法、場所、内容などを検討し、来年度はコロナ禍においても開催できるようにしていきたい。

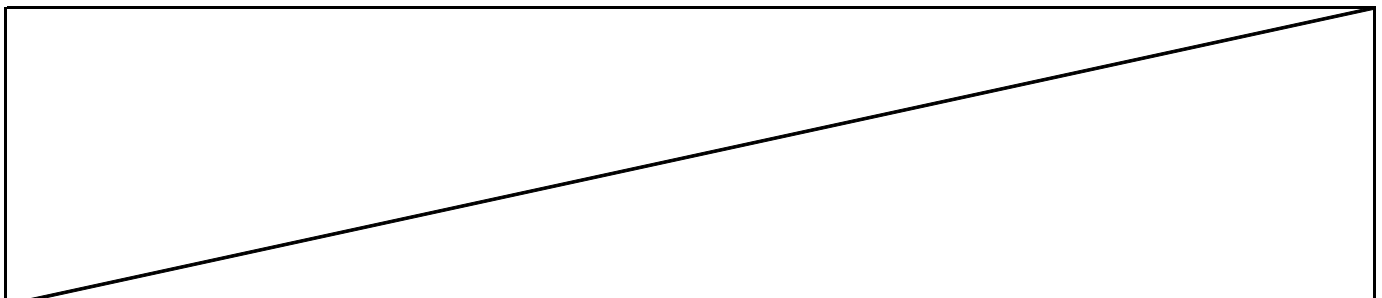
行政側

コロナ禍であるため、感染防止対策をしながら、どのように開催するのかが課題である。また、限られた予算の中で、どのように充実した事業を確保していくか、工夫が求められる。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

7、特になし

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市親子ふれあい綱引き大会	担当課	子ども家庭支援課青少年担当
------	----------------	-----	---------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和3年2月7日(日) 場所: 住友金属鉦山アリーナ青梅	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成15年1月)
(2) 事業の目的 青少年自身が地域活動に参加する機会や場を提供するとともに、綱引き大会に親子で参加することで、ふれあい、異年齢交流を図りながら、地域社会全体で青少年の健全育成を図ることを目的としている。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 幼稚園・保育園、小学生低学年、小学生高学年、中学生男子、中学生女子、ふれあい、一般男子、一般女子の全8部門で合計60程度の出場チームより「親子ふれあい綱引き大会」を開催する。	
(4) 実施内容(実績値等) 親子ふれあい綱引き大会実行委員会の開催、会場設営等開催準備、総務・進行・受付・放送・選手・模擬店・会場、賞品および審判等各係による当日の大会運営を行う。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。	
(5) 事業経費(決算額) 事業実施委託料 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会、各地区委員会(11地区)	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成9年頃から、青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会において、市全体の統一事業として開催することについて検討が始められ、平成15年1月19日に「第1回青梅市親子ふれあい綱引き大会」が総合体育館で開催された。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 実行委員会を組織し、大会実施のための準備をすること。 大会前日の準備や当日の運営をすること。 行政側: 事務局として、大会の周知、出場チーム募集等の広報、実行委員会や組合せ抽選会等の準備を行うとともに、大会に必要な物品や消耗品の調達をすること。	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5

(11) 協働による効果

市民側

例年、行政側が実行委員会事務局を担当、大会運営についてはスポーツ推進委員や綱引連盟公式審判員、青少年対策地区委員が協力して進行を行っており、これまでどおり準備し実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となってしまった。

今後の事業については、感染対策をとりやすい種目(ボッチャ)に変更し、準備していくことを決定した。

行政側

例年とおりの協力体制を維持し、大会開催に向けた準備を行うための協議をしてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により大会が中止となってしまった。

今後も目的達成に向けた市全体での事業を実施していくために、新種目での事業について検討し、綱引きに変えてボッチャを実施していくこととなった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

新種目(ボッチャ)の普及や各地区出場チームの呼びかけを行い、親子のふれあいや青少年の健全育成を目的に、これまで培った事業経験を活かしながら、より良い大会にしてゆきたい。

行政側

令和2年度の大会中止にともない、令和3年度の親子ふれあい事業については、コロナ禍でも感染対策がとりやすい種目(ボッチャ)に変更することとなった。

新種目での大会開催に向け各関係機関との調整・連携を進めるとともに、協働関係を維持しながら大会を実施していく。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

① 広報おうめ ② ホームページ 3. 行政メール 4. ツイッター 5. 報道機関へのプレスリリース

6. その他() 7. 不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	担当課	商工観光課観光係
------	---------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年5月中旬から6月中旬 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 場所: 吹上しょうぶ公園	<b style="color: red;">※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 来園者へのサービス向上を図る	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 花しょうぶまつりでの来園者へのガイド	
(4) 実施内容(実績値等) 花しょうぶまつりでの来園者へのガイド	
(5) 事業経費(決算額) 0円 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 吹上しょうぶ公園ガイドボランティア 参加人数: 0人 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 来園者へのサービス向上を図る
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: ガイドの実施 行政側: 講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

また、来ていただくことを念頭にわかりやすく、メンバー全員で情報を共有化した。(各圃場のしょうぶの種類リスト等)

来園者とともに楽しく丁寧にガイドすることを目安として、活動する。

行政側

来園者一人ひとりの要望に沿ったガイドを行い、満足度を高めること。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

専門知識を受け継ぐことは必須条件ですが、分かりやすさが大切だと思います。ガイドはどうしても密になりやすいので、コロナの来園中止対応はしかたがありません。

朝礼をしていますが、ボランティア一人ひとりが1分間スピーチをして、今日のポイントを話をしたらいいと思います。

行政側

毎年、新規ボランティア加入があるため、引き続き新人の方が活動しやすい環境づくりとガイド間の情報共有や専門知識の継承を行いたい。また、コロナ禍におけるボランティア同士の活動についても検討していく。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

①、広報おうめ ②、ホームページ ③、行政メール ④、ツイッター ⑤、報道機関へのプレスリリース

⑥、その他() ⑦、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	梅まつりガイドボランティア	担当課	商工観光課 観光係
------	---------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 3月1日～3月21日 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 場所： 梅の公園	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 来園者へのサービス向上を図る	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 梅まつり来園者へのガイド	
(4) 実施内容(実績値等) 梅まつり来園者へのガイド ※コロナウィルス感染拡大防止のため中止	
(5) 事業経費(決算額) 0円 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 梅の公園ボランティア 参加人数： 0人 ※コロナウィルス感染拡大防止のため中止	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 梅の公園利用者サービス向上	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： ガイドの実施 行政側： 講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

事前に担当課、担当者をお互いに交え、意見交換や要望を上げることができ、円滑な準備を行うことができた。かつての梅の公園を上回る多品種の梅が植栽されたことを機に、ガイドボランティア有志で積極的に勉強する機会が得られる。

行政側

来園者向けのサービス向上。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

- ・ガイドボランティアの人数が少ない。→市内の小学生にガイドをしてもらうのはどうか。
- ・市からの情報提供が少ない。例えば、品種や、ルート(ここは危険だから避けましょう等)、話の内容など。
- ・代わりの講師の方が未だ決まっていない。
- ・梅の公園以外のルートをガイドしてみるのもいいのではないか。
- ・駐車場が少ない

行政側

コロナ禍でいかにしてガイドボランティアを実施するか。
ガイドボランティアの減少、高齢化。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() ⑦、特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	森林ボランティア育成講座	担当課	農林水産課林務水産係
------	--------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年7月11日、8月8日、9月12日、10月3日、11月14日、12月12日、令和3年1月9日、2月6日(中止)、3月27日(計8回) 場所: 青梅の森他	<b style="color: red;">※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
1、単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 森林ボランティアの育成を図る。平成22年度からは杉並区との共同開催となっている。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 年間8回の講座開催。 講座受講者22人(青梅市13人、杉並区9人)	
(4) 実施内容(実績値等) 下刈り、間伐、道づくり、枝打ち等。	
(5) 事業経費(決算額) 森林ボランティア育成講座実施業務委託料 決算額1,100,000円 バス借り上げ料138,820円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: NPO法人 青梅林業研究グループ 参加人数: 毎回10~21人程度
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 平成14年から森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成を図ることを目的に講座を開催している。講座の指導者には、森林施業に関する専門的な知識、技術が必要であることから、経験も豊富であり、他の団体に対しても指導を行っているNPO法人青梅林業研究グループに委託している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 講座内容の決定、資機材の準備、当日の実技指導 等 行政側: 受講者への連絡、会場確保、講座内容の調整 等

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3

(11) 協働による効果

市民側

日本の山林の状況を受講生によく理解してもらい、森林作業を体験することにより、森が変わっていくことを実感することができ、少しずつでも手を入れていくことの大切さがわかってもらえた。今後も森林保全にかかわっていききたい。青梅の森をはじめ、作業内容にあった市有林で、様々な作業ができることは、受講生にとって良い環境ができています。また、青梅の森の保育保全も進んだ。

日本の山林の状況を受講生によく理解してもらい、森林作業を体験することにより、森が 変わっていくことを実感することができ、少しずつでも手を入れて行くことの大切さがわかってもらえた。今後も森林保全に関わっていききたい。青梅の森の保全活動も進んだと思う。青梅の森をはじめ、作業内容にあった市有林で、様々な作業ができることは、受講生にとって良い環境ができています。また、青梅の森の保育保全も進んでいる。

行政側

青梅林業研究グループには、森林施業に対する深い知識や技術を持ち合わせた者が多く在籍し、本講座以外にも多くの場で指導を行っており委託先としてふさわしく、受講生からは親切・丁寧な指導に対して感謝のことが多く寄せられている。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

今後も継続して森に関わっていける場を考えて欲しい。また、さらに技術を勉強できる機会があればいいと思う。より多くの方が森林保全に関わっていけるといいと思う。全8回の講座で、受講生の欠席者が少なくなるようにプログラムの充実を図りたい。この講座を受講することにより、さらに森林に興味を持ち、スキルアップができるよう、またこの事業を広めることにもお力添えいただきたい。

行政側

今後は、受講生の高齢化問題や受講生の欠席者の増加などに対して、魅力的なカリキュラム等で講座自体を活性化することを協議する場を設ける。また、220人を超えた修了生に対する活動の場の提供や活動内容の支援も重要な課題となっている。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

①、広報おうめ

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	第55回記念青梅マラソン大会	担当課	スポーツ推進課スポーツ推進係
------	----------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和3年2月21日(日) 場所: 10キロの部 東青梅四丁目～日向和田(折返し)～青梅市役所前 30キロの部 東青梅四丁目～川井(折返し)～青梅市総合体育館前	<b style="color: red;">※新型コロナウイルス感染症による影響 4、影響あり(延期)
2、継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(1967年3月)	
(2) 事業の目的 ①参加者の競技力向上と走ることを楽しむ場の提供 ②外国選手を含む参加者間の親睦、交流およびボランティア等も含めた大会関係者間の地域交流を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 参加者(定員19,000人)を募集し、安全なマラソン大会を運営する。	
(4) 実施内容(実績値等) ロードレース ①10キロの部 ②30キロの部 ③ジュニアの部	
(5) 事業経費(決算額) 新型コロナウイルス感染症による影響のため延期とした。	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅市スポーツ推進委員協議会、一般社団法人青梅市スポーツ協会、自治会、ボーイスカウト、青梅交通安全協会、青梅市陸上競技協会(主催団体の一つなので事業共催)など 参加人数: 新型コロナウイルス感染症の影響により延期とした。	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 参加者、沿道の人出が非常に多い大会であり、よりスムーズな大会運営を行うために、広範囲の人々の協力を求めた。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 競技運営、観衆を整理するコース整理員や給水係、レース後のコース清掃など 行政側: 大会の企画、各種申請等の届出、競技運営など	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

(11) 協働による効果

市民側

青梅マラソンについては、市民の方の協力があつての大会であり、新型コロナウイルス感染症の影響により延期については、市民の安全を考えると、延期はやむを得ない状況であった。今後、市の活性化を考えても、必要であると考えている。

行政側

新型コロナウイルス感染症の影響により延期となつてしまったため、今年度は効果を得ることができなかつたが、例年青梅市のPRとなる大きな役割を担っている。市民、行政が一体となり大会参加者を迎えることができ、青梅市の活性化イベントの一つである。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市民ボランティアが安全にできるような感染症対策を行い、安全な運営方法の検討をする。

行政側

- ・感染症対策を行い、安全な運営方法の検討をする。
- ・記念大会として青梅市の魅力発信となる企画・運営の検討をする。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

新型コロナウイルス感染症の影響により延期とした。

協働事業評価シート(表)

事業名称	住宅なんでも相談会	担当課	住宅課 住宅政策係
------	-----------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和2年10月24日(土) 午後1時30分～4時30分 場所： 204・205会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年11月)
(2) 事業の目的 市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家の相続、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕・維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 無料の住宅相談会を開催し、市民の住宅に関する問題や悩みを解決する。	
(4) 実施内容(実績値等) 相談件数 14件	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 青梅市住宅施策推進協議会と司法書士会、行政書士会 (民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体) 参加人数： 12人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 相談会当日の相談員 行政側： 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込み受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRにつながった。

行政側

住宅に関する様々な相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解消することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

青梅市住宅施策推進協議会所属の相談員のほか、司法書士会、行政書士会にも協力を得て、空き家の相続問題等、専門的な相談にも対応することができた。相談者も喜んで頂けたので、引き続き問題解決の一助となるよう対応したい。

行政側

さらに相談者を増やすための効果的な周知方法等を検討する。
引き続き、相談内容の種別に対し、専門の相談員を配置できるよう、対応を検討していく。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、 広報おうめ 2、 ホームページ 3、 行政メール 4、 ツイッター 5、 報道機関へのプレスリリース
6、 その他(自治会回覧) 7、 不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	定例住宅相談会	担当課	住宅課 住宅政策係
------	---------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年4月16日～令和3年3月18日の第3木曜日(10月を除く) 場所: 市役所会議室	<b style="color: red;">※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成26年7月)
(2) 事業の目的 市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家の相続、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕、維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 無料の住宅相談会を開催し、市民の住宅に関する問題や悩みを解決する。	
(4) 実施内容(実績値等) 開催回数 11回(うち6回は新型コロナウイルスの影響で中止) 相談件数 9件	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅市住宅施策推進協議会と司法書士会、行政書士会 (民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体) 参加人数: 12人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 相談会当日の相談員 行政側: 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込み受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRにつながった。

行政側

住宅に関する相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解消することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

青梅市住宅施策推進協議会所属の相談員のほか、司法書士会、行政書士会にも協力を得て、空き家の相続問題等、専門的な相談にも対応することができた。相談者も喜んで頂けたので、引き続き問題解決の一助となるよう対応したい。

行政側

さらに相談者を増やすための効果的な周知方法等を検討する。
また、相談内容がその相談日のテーマに合っているかの精査が必要であり、場合により相談日(月)の変更等の対応を行う。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、 広報おうめ 2、 ホームページ 3、 行政メール 4、 ツイッター 5、 報道機関へのプレスリリース
6、 その他(自治会回覧) 7、 不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	学校教育ボランティア	担当課	指導室 指導係
------	------------	-----	---------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 通年 場所： 各市立小・中学校	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
1単年度事業 2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)	
(2) 事業の目的 青梅市立小・中学校の教育活動を継続的に支援できる個人または団体を青梅市教育ボランティアとして登録し、地域の教育力として活用することにより、学校教育の充実および活性化を図ることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 地域人材の活用した学校教育活動の充実	
(4) 実施内容(実績値等) 学習活動への支援、生活指導への支援、交流・体験活動への支援、クラブ活動への支援、学校図書館における整備等の支援、学校行事への支援、特別な教育的支援を要する児童・生徒への支援、その他、学校が必要とする活動への支援	
(5) 事業経費(決算額) なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1 政策立案・事業企画等 2 事業共催 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： — 参加人数： 133人 (全校 計)
(3) 協働の提案者 1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市教育ボランティア制度実施要綱にもとづき各学校が募集、登録
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 学校の依頼にもとづく支援 行政側： 学校への活用奨励

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

学校の教育活動を支援することができた。
できる範囲で教育活動にかかわることができた。
子どもたちの様子を見ることができた。

行政側

地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。
図書室整理・学習支援・安全パトロールなどで、なくてはならない存在となっている。(登録133人)
地域・保護者の観点から、よりよい教育活動充実のための意見交換ができています。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

新型コロナウイルス感染症により、活動自体や活動内容が制限される。
学校の都合で日時が限定される。
分担の内容の明確化(どのようなことが望まれているか、はっきりすると活動がしやすくなる)

行政側

新型コロナウイルス感染症により、活動自体や活動内容が制限される。
人材の十分な確保
ボランティア人材の発掘

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース
6、その他() ⑦、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	生涯学習フェスティバル ～釜の淵新緑祭2020～	担当課	社会教育課 生涯学習推進 係
------	-----------------------------	-----	-------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和2年5月16日(土)、17日(日) 場所： 釜の淵公園およびその周辺施設	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(20年 5月)
(2) 事業の目的 各種団体・サークル活動の発表場所の提供、体験イベントによる学習機会の提供、および生涯学習事業の周知	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 目標来場者・参加者：晴天時3,500人以上、雨天時2,500人以上	
(4) 実施内容(実績値等) コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 青梅市生涯学習推進市民会議、各出演団体、学生ボランティア 参加人数： 中止のためなし	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市生涯学習推進市民会議に事務局として	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側： 企画運営 行政側： 事務局	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

行政側と十分に協議をしたうえで中止の決定をすることができた。

行政側

中止に至るまでの判断を協議することで市民側の意見を汲み取りながら判断することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

来年度は釜の淵公園、文化交流センターを活用して盛大に実施したい。

行政側

来年度も実行委員会の運営がさらに市民が主体的に実行できるようにサポートしていきたい。文化交流センターが開館したが、いまだに新緑祭で活用できていない。市民と協力し合いながら釜の淵公園、文化交流センター双方を使つての新緑祭を創り上げていきたい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ

事業の様子(写真等)

なし

協働事業評価シート(表)

事業名称	家庭教育講演会	担当課	社会教育課 生涯学習推進係
------	---------	-----	---------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: ①令和2年10月24日②令和3年1月23日 ③令和3年3月14日 場所: 受講者自宅(zoomによるオンライン講演会)	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(22年 7月)
(2) 事業の目的 家庭教育の充実を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 年3回、その時々課題となっているテーマで講演会を実施する。	
(4) 実施内容(実績値等) ①知って納得！オンライン授業 ②親から伝えたい♥️生命のこと、性のこと ③親子でチャレンジScratch!	
(5) 事業経費(決算額) ①講師報償金 6,000円 ②講師報償金 30,000円 ③講師報償金 18,000円 (6,000円×3人)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: NPO法人 青梅こども未来 参加人数: 講演会各回10人前後
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 子育て現場の声を反映した講演会とするため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 保護者への周知、講師等の情報提供、子どもの保育、当日受付・手伝い 行政側: 周知、講師交渉、当日運営

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

- ・協働ということで実施の動機付けがより強くなり、年3回の開催が可能になった。
- ・子育て中の保護者の要望に答えるテーマを取り上げることが出来た。
- ・新型コロナ禍、中止になる行事講演会が多い中、オンラインの活用で3回とも実施することが出来た。

行政側

- ・子育ての現場に関わる市民と協働することで、市民の求める内容の講演会を実施できた。
- ・オンラインで開催することで小さなお子さんがいる家庭も参加しやすかったとの意見が多く寄せられた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

- ・今年度、講師料の件で、市の柔軟な対応とご検討をいただき、実現することが出来た。感謝するとともに今後も市場価格を鑑みた講師料の設定や予算の計上をお願いしたい。
- ・オンライン配信の準備、当日の作業が思った以上に大変だった。
- ・現役子育て世代が、聞きたい・参加したいと思えるテーマでの企画をして「家庭教育講演会」のハードルを下げ、今までこういった場に来たことのない方たちの参加を促していきたい。

行政側

- ・共通の目的を持った仲間と出会える会場に集まる形式と気軽に参加できるオンラインを活用した形式を両方実施し、それぞれの特性を活かした講演会を開催したい。
- ・参加者増加のための周知方法を検討していきたい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	この指とまれ！朗読会	担当課	社会教育課図書館担当
------	------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和2年5月16日(土) 場所：中央図書館 多目的室	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年6月)
(2) 事業の目的 朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 朗読参加者等の確保	
(4) 実施内容(実績値等) 朗読グループ「リーダーズあおうめ」と中央図書館が共催で、年齢、性別を問わず、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場の提供を行い、朗読会を開催する。	
(5) 事業経費(決算額) なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：「リーダーズあおうめ」 参加人数： 6人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ リーダーズあおうめによる朗読会は、以前より行われていたが、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場を提供し、朗読会を開催するなど、図書館の設置目的と合致することから、共催で実施することとした。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	
市民側：	企画立案、広報、応募者の取りまとめ、朗読会の開催運営
行政側：	企画立案、広報、会場提供、朗読会の開催支援

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	2	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側
事業開催について、行政(図書館)と話し合い、中止とした。

行政側
事業開催について、市民と話し合い、中止した。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側
新型コロナウイルス感染症対策等を行政(図書館)と話し合い、安心安全に開催できるようにしたい。

行政側
出演者、参加者が多数集まる中で朗読を行うという特性があるため、従来の開催形態では難しい。事前に朗読を収録したものを上映するなど、安心安全に開催できる朗読会等を検討していく。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース

6、その他() (7)、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	中央図書館整架ボランティア	担当課	社会教育課 図書館担当
------	---------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年4月1日～令和3年3月31日 場所: 中央図書館	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年11月)
(2) 事業の目的 市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 整架ボランティアの人員確保、図書館の環境整備(整架、配架、資料清掃)	
(4) 実施内容(実績値等) 整架ボランティアにより、中央図書館の配架および書架の整理と軽易な資料修理を行っている。	
(5) 事業経費(決算額) なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 図書館整架ボランティア登録者 参加人数: 延べ 0人(登録者17人、年間活動日数0日)	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動場所の提供	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 図書の整架・清掃 行政側: ボランティアに対する社会的活動の場の提供	

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 従来から、作業中に問合せをいただくなど利用者と接する機会もあり、コロナ終息までは活動自体は難しいものと認識しています。</p>			
<p>行政側 感染防止のため、活動を中止する連絡をし、話し合いの上、市民より了解をいただいた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 館内での滞在時間の制約があるため、従来の活動がそのままできる状況まで回復することは難しいと考えています。図書館と十分に話し合っ、活動を開始したい。</p>			
<p>行政側 滞在時間1時間、が緩和されなければ開催は難しいと考えている。ボランティア活動の再開については未定との連絡をしています。再開の際は、マスク・手袋の着用をしていただき、利用者との距離をとって活動をしていただく。</p>			
<p>情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)</p>			
<p>1、広報おうめ 2、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース 6、その他() ⑦、不要・特になし ※取材者()</p>			
<p>事業の様子(写真等)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 80px; width: 100%;"></div>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おはなしボランティア	担当課	社会教育課 図書館担当
------	------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年4月1日～令和3年3月31日 場所: 中央図書館	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年 月)
(2) 事業の目的 市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) おはなしボランティアの人員確保、おはなしの技術向上、絵本の読み聞かせ技術向上	
(4) 実施内容(実績値等) おはなし会3回(中央)、3回(今井)、1回(梅郷)、1回(新町)、2回(青梅)、絵本の森2回、大人も楽しむおはなし会0回、新緑祭0回、出張おはなし会1校1回、おはなしドーナッツ2回(中央)、絵本のべんきょう会0回、ブックスタート0回、おはなしにちようピーナッツ2回、計17回	
(5) 事業経費(決算額) 0円 絵本のべんきょう会講師報償金(6,682円×0回) 11,135円 おはなしドーナッツ講師報償金(2,227円×5回)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 「青梅おはなしの会」、「おはなしの会 ころりん」、「絵本の研究会」、個人登録ボランティア 参加人数: 延べ45人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動の場の提供	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	
市民側:	おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会への参加、実演
行政側:	おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会の開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	3	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5

(11) 協働による効果

市民側

感染症対策として回数は少なくなったが、図書館と協力しておはなし会を実施できた。
開催したおはなし会に子どもの参加があり、活動の励みになった。

行政側

ボランティアの方と十分に話し合い、回数を減らしつつもおはなし会を実施できた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

感染症対策を万全に実施しながら、子どもたちに良い読書体験ができるよう協力したい。

行政側

ソーシャル・ディスタンスの徹底や、三密を防ぎつつボランティアも協力して参加人数を限定したおはなし会や、複数の図書館に分けておはなし会の実施を図っていきたい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

- ① 広報おうめ ② ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース
6、その他() 7、不要・特になし ※取材者()

事業の様子(写真等)

協働事業評価シート(表)

事業名称	勝沼城・辛垣城御城印制作事業	担当課	文化課 郷土博物館管理係
------	----------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 令和2年7月～令和3年3月 場所: 青梅市郷土博物館、青梅市吉川英治記念館	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
1、単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 市名の由来である平将門の子孫と称する三田弾正を活かした地域おこしの一環として、三田氏の居城跡として市内に所在している勝沼城、辛垣城の御城印を協働で制作し、配布することで、市内に限らず、市外にも広く青梅の歴史と文化を広める。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 協働団体等の創意工夫を生かして制作した御城印を、来館アンケートに回答していただく形で青梅市郷土博物館、青梅市吉川英治記念館で配布した。	
(4) 実施内容(実績値等) 近年、他地域の城跡等で配布されている御城印を参考に、協働団体が制作した消しごむスタンプ等を用い、団体独自デザインの御城印を勝沼城・辛垣城それぞれで制作した。辛垣城の御城印では地域の書道家に題字等を揮毫していただき、市民との協働をさらに深めた。	
(5) 事業経費(決算額)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 武州青梅三田弾正手作り甲冑隊 参加人数: 3名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 郷土博物館の企画展「中世青梅の城館跡～静かに眠る柚保の城～」開催にあたり、協働団体より「勝沼城御城印」制作・配布の提案があり、実施に至った。大変評判となったため、青梅市吉川英治記念館での「辛垣城御城印」の制作・配布について、市から協働団体をお願いした。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側: 御城印のデザイン・監修 行政側: 印刷・配布	

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3

(11) 協働による効果

市民側

事業の目的である青梅の歴史と文化を広めることを目指し、今回、御城印を配布することでwithコロナの中でも市民に配慮した展示方法や気遣いがあったと思います。今後とも郷土博物館・記念館がその機能を十分発揮され皆様と一緒に目的を共有できるようにしたいものです。

行政側

勝沼城の御城印は約900枚、辛垣城の御城印も約900枚(令和3年3月まで。現在も配布中)配布することができ、目的としていた市内外に青梅の文化と歴史を広く周知することができたと考える。また、アンケートへの回答を条件に配布したため、多くのアンケートを集めることもでき、今後の郷土博物館、記念館運営の参考となるデータも多く収集することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

少し心配な点は御城印などの制作の継承と進化という問題があります。市内各所で地域とともに行っていた行事が中止、あるいは規模縮小するなかで今後、一過性に終わらせない工夫が必要であると思います。

行政側

勝沼城御城印配布当初、手渡し配布としていなかったことおよび想定外の評判から、大量の持ち帰りや、インターネットオークションで売買が散見された。すぐに対策を講じたが、今後、同様の事業を実施する際には様々な角度から影響を考慮して事業に取り組みたい。

情報提供の方法(1.広報おうめ 2.ホームページ 3.行政メール 4.ツイッター 5.報道機関へのプレスリリース)

- 1、広報おうめ ②、ホームページ 3、行政メール 4、ツイッター 5、報道機関へのプレスリリース
6、その他(チラシの配布) ※取材者(西多摩新聞、西の風新聞、読売新聞、東京新聞)

事業の様子(写真等)

市民提案協働事業一覧

No.	テーマ	事業名称	提案団体	担当課
1	自由	親子の絆づくりプログラム 「きょうだいが生まれた！」 (愛称：BP2 プログラム)	特定非営利活動法人 青梅こども未来	子ども家庭支援課
2	自由	ザ☆のだじまん	ふれあい音楽祭実行委員会	社会教育課 市民活動推進課 (青梅市民センター)
3	自由	青梅のプレーパーク森もり♪あそぶ	特定非営利活動法人 子どもと文化のNPO 子ども劇場 西多摩	社会教育課 公園緑地課

【自由提案】

市民活動団体が市と協働で実施したい事業について、自由な発想で提案するもの

【行政テーマ提案】

市が設定した次のテーマについて、事業を提案するもの

- 1 「多世代交流を通じた持続的な地域の新しいつながり・居場所づくり」
- 2 「あそぼうよ！青梅」
- 3 「SDG s の推進に向けた、プラスチックごみの削減」
- 4 「東京 2020 パラリンピックの成功と大会後を見据えた気運醸成」
- 5 「河川等における市民参加による外来植物の駆除」

事業名 親子の絆づくりプログラム

「きょうだいが生まれた！」(愛称：BP2 プログラム)



- 1 実施団体 特定非営利活動法人青梅こども未来
- 2 担当課 子ども家庭支援課
- 3 実施時期 2020年11月10日(火)～12月8日(火)
- 4 参加者 第2子以降の2か月から5か月の赤ちゃんと母親 7組
- 5 実施場所 青梅市子育て支援センター内自治会館
- 6 事業の目的 第2子以降の子育てで、子どもの発達をベースにした「少し先を見越した子育ての知識」を学ぶことにより一方向の知識の提供だけではなく、育児の知識やスキル、親の役割などを参加者同士で学び深め合うことを目的とし、親同士が協力し合いながら地域で安心して子育てできることを目的とする。
- 7 役割分担
 - ・団体の役割
 - ・講師依頼
 - ・広報活動(チラシ・ポスターの作成依頼、関係各所へのお知らせ等)
 - ・事務受付スタッフ要員の確保
 - ・コロナ感染拡大予防のためのマニュアルの作成等

- ・当日の会場準備等
- ・担当課の役割
 - ・市報への記事の掲載
 - ・市内関係各所にポスター、チラシの掲示及び案内
 - ・会場の確保

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

・第2子以降の子育ての中では、上の子が幼児期になり様々な困り事、心配事が出てくるが、それを参加者同士で共有し話しをする中でピアレビューができる子育ての仲間づくりが出来ました。そして、その中で親の育児ストレスの軽減や心身の安定を図ることが出来ました。

更に、第3子で参加していた母子との話し合いの中で「3人目を産もうか迷っていたが、勇気がでた。」との発言もあり少子化対策にもなる事を感じました。参加者のアンケート結果については、その他に記載します。

9 目標達成

事業の目標：

- ・幼児期に入っている上のお子さんとのかかわり方を学ぶ
- ・子育ての孤立化を防止し子育ての仲間づくりを行う
- ・子どもの身体の発達を学ぶことで、焦らず、完全を求めない、長いスパンでの子育ての見通しを持つことが出来る
- ・「親としてよりよく生きる」という親自身の人生についても考えていく

目標の達成具合：

・このプログラムに参加することで、日々の子育ての中での不安や困り事、人に聞いてみたい事が明確になり、それを話し聞いてもらい、また他者の話しを聞く中で自身も考えることが出来たと思います。その中で人との繋がり、親同士が協力し合いながら地域で安心して子育てできることの大切さを感じ取ってくれたプログラムとなりました。

10 事業の実施内容

○実施日程

- 1.令和2年11月10日（火）10時00分～12時00分
- 2.令和2年11月17日（火）10時00分～12時00分
- 3.令和2年11月24日（火）10時00分～12時00分
- 4.令和2年12月1日（火）10時00分～12時00分

- 5.令和2年12月8日(火)10時00分～12時00分毎週1回 連続5回
 6.令和2年12月22日(火)～28日(月) アンケート回収終了後集計
 7.令和3年1月4日(月)2月、3月 子ども家庭支援課共催で実施決定
 提出資料取りまとめ作業

○対象

- ・第2子以降の2か月～5ヶ月の赤ちゃんとその母親 7組

○講師

- ・BP-JAPAN BP2ファシリテーター 2名
- ・事務・子育てサポートアシスタント 1名(コロナ感染拡大防止のため第一回目だけの参加とした)

○内容

- ・「安全」で「安心できる」雰囲気の中で、お互いの状況や体験を話し合ったり、工夫されたプログラムに参加する中で自然に育児の知識やスキル、親の役割などを一緒に学び、深める。そしてその過程で、お互いに悩み事や疑問点を話し合えるくらいにまで親しくなる。
- ・映像を使い、子育て知識を学習する。(主なテーマは、幼児期に入っている上のお子さんとの関わり方)
- ・親用テキストと子育てに必要な知識を整理したDVDを使用し子育ての基礎知識を学ぶ。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	3	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

・このプログラムは、1回だけで終わるものではありません。今後子育て環境を整える上でも希望する方には、是非届けていきたいプログラムであることを痛感しています。

生まれながらに一人前の親はいません。「親は子育てをする中で、まわりから情報やサポートを受けながら、親として育っていくものである」という考えが当たり前ののですが、現状では子どもを産めば親として役割がすぐに果たせるもの、あるいは果たすべきものとまわりは見ています。その中で親自身も悩んでいる状況が多くあることは、子育てひろば等で接している母親たちの言葉からも常に感じています。親のニーズを満たし、子育てのニーズと両立するための親支援が求められています。

今回の開催を経て、この講座を切れ間なく実施することの重要性を強く感じ、早速、令和3年2月～3月に「令和2年8月9日～12月8日に生まれた第二子以降の赤ちゃんのいるお母さん」を対象に青梅こども未来主催で第2回目を実施することにしました。今回の担当課である子ども家庭支援課に協力をいただきましたが、今後は「行政主導」でのBP2プログラムの実施が必要であると感じています。

13 その他

・終了時に取ったアンケートと結果を報告します。

きょうだいが生まれた！ アンケート

あてはまるものを○で囲んでください。

1. このプログラムに参加したきっかけは何ですか

①市町の広報・HP・ちらし ②関係者からの紹介 ③知人の紹介 ④その他（ ）

2. BP2は5回のプログラムですが、回数はどうでしたか

①多い ②ちょうどいい ③少ない

3. 1回は2時間（後半20分は自由交流・質問タイム）ですが、時間はどうでしたか

①長い ②ちょうどいい ③短い

4. このプログラムでは、参加者の安心・安全は守られていましたか

①守られていた ②まあまあ守られていた ③あまり守られていなかった

④守られていなかった

5. このプログラムに参加して、子どものことや育児のことを話し合える人はできましたか

①できた ②少しできた ③あまりできなかった ④できなかった

6. このプログラムに参加して、育児の方法や考え方について、何か新しい知識が得られましたか

①得られた ②少し得られた ③あまり得られなかった ④ぜんぜん得られなかった

7. テキストは、役に立ちましたか

①とても役立った ②少し役立った ③あまり役立たなかった ④ぜんぜん役立たなかった

8. このプログラムは、あなたの育児に役立ちましたか

①とても役立った ②少し役立った ③あまり役立たなかった ④ぜんぜん役立たなかった

9. このプログラムに参加しての満足度はどうですか

①とても満足 ②まあまあ満足 ③やや不満足 ④不満足

10. このプログラムを他の母親にすすめたいと思いますか

①ぜひすすめたい ②すすめてもいい ③あまりすすめたくない ④すすめたくない

11. このプログラムで、こころに残った内容は？（いくつでも可）

①問題解決アプローチ ②子どもの心の発達 ③しつけ ④子育てで大切にしていること

⑤私のストレス ⑥優先順位 ⑦ストレス解消法 ⑧ピエロバランス ⑨バランスのとり方 ⑩心の安定根 ⑪その他（ ）

12. このプログラムに参加して、子どもに対する思いや接し方に変化はありましたか。

以下に自由に書いてください。（自由記載）

●開始時のお子さんの月齢（ ）か月

回収アンケート表																								
場所:		青梅市子育て支援センター和室					栗原 久美子					吉田 由美子												
							参加者: 7組					アンケート回収: 7枚												
集 計																								
参加者NO	1	2	3	4	5	6	7	人数	人数	人数	人数	自由記載(箇条書き)												
0	子どもの月齢:BP開始時	5	5	2	4	5	4	3	2 か月	1 か月	1 か月	2 か月	3 か月	1 か月	6 か月	0	0							
1	参加したきっかけ	2	4	2	2	2,3	3	1	①	1	②	4	③	2	④	1	No2:おうめぐち(SNS)							
2	回数	2	3	2	2	3	2	2	①	0	②	5	③	2	④	0								
3	時間	2	2	2	2	2	2	2	①	0	②	7	③	0	④	0								
4	安心・安全は守られていたか	1	1	1	1	1	1	1	①	7	②	0	③	0	④	0								
5	話ができる人はできたか	2	1	1	2	2	2	2	①	2	②	5	③	0	④	0								
6	新しい知識は得られたか	1	1	1	1	1	1	1	①	7	②	0	③	0	④	0								
7	テキストは役だったか	1	1	2	2	1	2	2	①	3	②	4	③	0	④	0								
8	育児に役立ったか	1	1	1	1	1	2	1	①	6	②	1	③	0	④	0								
9	満足度	1	1	1	1	1	1	1	①	7	②	0	③	0	④	0								
10	他の母にすすめたいか	1	1	1	1	1	1	1	①	7	②	0	③	0	④	0	⑨	2	⑩	4	⑪	0		
11	こころに残った内容	1,9	1,2,8,10	3,8,9,10	1,10	2,5,7,8,10	1,5,7	2,4,5,7	①	4	②	3	③	1	④	1	⑤	3	⑥	0	⑦	3	⑧	3
12	思いや接し方に変化があったか。 :箇条書き、参加者番号を記入してください :省略せず全文記入してください :記入欄は広げても結構です	(例①・・・) ①上の子に対する接し方にひと呼吸おいて話を聞いてあげようと心の余裕を持てるようになったと思います。ありがとうございました。 ②より愛おしく感じるようになった。上の子への感謝の気持ちが強くなった。いつもよいママではいられない自分も許してあげつつ、子どもの健やかな成長を一番近くでサポートできる70点ママを目指します。ありがとうございました。 ③上の子に対して接し方やしつけについてより気持ちを汲んであげられるようになった。 ④悩みや疑問etcを共有することで、心の安定に近づくことができた。またアドバイスも頂けて有難いと感じました。 ⑤他人に話す事の大切さを実感できた。 ⑥お姉ちゃんにほんの少しかもだけど付き合うようになった。 ⑦同じように感じているママさんと話すことが出来、共感と安心することが出来ました。																						

事業報告書

事業名 ザ☆のだじまん



- 1 実施団体 ふれあい音楽祭実行委員会
- 2 担当課 社会教育課・市民活動推進課（青梅市民センター）
- 3 実施時期 令和2年9月15日 広報おうめ募集開始
令和2年11月29日 ザ☆のだじまん実施
令和3年1月21日 まとめ三役会

4 参加者

出演者10組（20名）、バンド4名、司会1名、当日スタッフ14名、観客60名（入れ替え制）、LIVE 配信視聴者数150名、ベストパフォーマンス投票者数1251名（オンライン参加含む）、YouTube 視聴回数1975回（令和3年1月24日現在）

5 実施場所 ネットたまぐーセンター多目的ホール

6 事業の目的

- ① 生涯学習の入り口として、普段音楽活動を行っていない人も、生

バンドで歌うという体験を通じて音楽に親しみ、舞台に立つという体験をする。

- ② 子どもから高齢者まで、また障害の有無を問わず、多世代、多様性を実現する活動とする。
- ③ 音楽を通じた、地域紹介・人物紹介をテーマとし、観客も含めた誰しものがその時間を楽しめるプログラムとし、出演者・観客が一体となり楽しむことで、青梅って素敵だなと思える郷土愛を育む。

7 役割分担

・団体の役割

企画・運営…参加者募集チラシ作成、選考会・リハーサル運営、バンド・司会担当との連絡調整、ステージコーディネート、オンライン配信環境整備、協賛金募集
広報…参加者募集チラシ、協賛金チラシ配布、フェイスブック運営、多摩ケーブルテレビ、omegocoti等宣伝依頼

・担当課の役割

広報…広報おうめ9月15号、11月15号掲載手配
参加者への事務連絡、会場確保

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

行政と協働することにより広範囲な告知が可能となり、多様性のある参加者・団体の参加が実現した。高校生から80代の方まで幅広い年代、外国籍の方、障がい者団体の参加と多様性がある方々が共に楽しめる企画となった。

YouTubeのLIVE配信により、会場に来られない方も同じ時間を共有することが可能となった。コロナ禍において、新しい生涯学習の形を提案することができた。

出演者のご友人、ご親戚などで関西圏や海外から視聴された方も

おり、「ザ☆のどじまん」のコンセプトである〈人物紹介〉、〈地域紹介〉が青梅という町を越え、全世界に発信することができた。

9 目標達成

事業の目標：

1. 参加希望者を広く募り、10組のステージに立つ人・グループを確保します。
2. 広く募ることで、企画の周知につなげ、多くの市民の方に「おもしろいことがあるな」という文化交流の場の存在をお伝えしていきます。
3. ネットたまぐーセンター文化祭のステージでの実施を検討し、多目的ホールの客席をソーシャルディスタンスに配慮した95席とします。
4. TCNなどの協力を仰ぎ、本番の様子を会場にいる人だけでなく、多くの方がみることができるところを目指し、オンライン同時配信の視聴者の目標人数を500人として、会場のキャパシティー以上に、多くの人と楽しさを共有します。
5. 協賛金を広く募ることで、今後の事業の継続につなげていきます。

目標の達成具合：

1. 10組20名の参加があり、目標は達成できた。
2. 広報おうめ、チラシの配布、フェイスブックによる宣伝により、多くの方に告知できた。
3. コロナウィルス再流行による入場制限があり、ホールの客席は30名に絞られたが、会場は入れ替え制で60名の観客を迎えることができた。
4. ベストパフォーマンス投票者数1251名（オンライン投票含む）の参加があり、視聴者の目標人数500人を達成できた。
5. 多くの市民から協賛金のご協力をいただき、今後の事業継続の見通しが立った。

10 事業の実施内容

- 9月6日 ふれあい音楽祭フェイスブックページにて出演者募集告知開始・出演者募集チラシ配布開始
- 9月15日 広報おうめにて出演者募集案内掲載
- 9月19日 ふれあい音楽祭フェイスブックページにて協賛金依頼案内開始・協賛金依頼チラシ配布開始
- 9月末日 出演者応募締め切り・第一次選考。応募者全員を第2次選考通過
- 10月18日 第2次選考会
- 11月10日 YouTube 配信業者と現地打合せ
- 11月15日 広報おうめにて「ザ☆のだじまん」オンライン配信案内掲載
- 11月22日 出演者・バンドリハーサル
- 11月28日 前日仕込み作業
- 11月29日 当日・LIVE 配信、事後
(<https://www.youtube.com/watch?v=rK7PYA2kC-Q&feature=youtu.be>)にて配信継続
- 1月21日 三役まとめ会

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	2

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

当団体は市民が楽しめる音楽祭を追求する中で、この「ザ☆のどじまん」というコンテンツを生み出してきました。実践を重ねる中で「音楽を通じた人物紹介・地域紹介」に特化した、市民のためのイベントの一つの形として整いつつあります。参加者一人一人がイキイキすることができ、なおかつ観ている人も含めて、青梅市への郷土愛につながっていくこのイベントを、できれば長くこの青梅市で続けていきたいと思えます。

そのために必要なのが資金やマンパワーですが、協賛金など市民の力だけでやっていくのは負担が大きく感じています。

今回協働事業で行うことで、公共性も大きく広がりました。

来年度は助成金を申請しておりますが、今後青梅市の社会教育・生涯学習の1つのプログラムと位置付けて頂き、市と市民団体が協働していくからこそ実現できる生涯学習の場を共につくっていくことを期待しています。本年にとどまらず今後も協働関係をつくって頂けることを提案したいと思えます。

13 その他

11（10）評価を1と致しましたが、本来ならば、まとめ会をしたかったのですが、コロナの現状が厳しく持つことが困難でした。今後、コロナウィルスの流行状況を見ながら開催を検討させて頂きたいと思えます。

事業報告書

事業名 青梅のプレーパーク森もり♪あそび



- 1 実施団体 特定非営利活動法人
子どもと文化のNPO 子ども劇場西多摩
- 2 担当課 社会教育課 公園緑地課
- 3 実施時期 令和2年8月16日～令和3年3月31日
- 4 参加者 333名
2020年
8月25名/9月25名/10月35名/11月77名/12月30名
2021年
1月44名/2月83名/3月14名
- 5 実施場所 風の子・太陽の子広場
- 6 事業の目的 自然豊かな公園を利用して五感を使える自然、昔遊びの機会を作り、子ども達の自主性を発揮できる機会をつくる

7 役割分担

- 団体の役割
企画・運営・チラシ・WEB 媒体での広報
- 担当課の役割
広報おうめへの掲載・会場確保

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

風の子太陽の子広場は緑に囲まれ、青梅の豊かな自然に親しめる場です。しかしながら、遊具のない公園や自然の中でどのように遊んでよいものか、子ども達・親たちも知らないでいるため特に子どもの利用は少ないという課題があったように思います。本事業ではのべ 333 名の参加者がありましたが、その多くが複数回にわたり参加していました。夏、秋、冬それぞれの季節による自然の変化、それに伴う季節ごとの遊びの面白さを実感してもらえたと思います。また、何もないと思われる自然も少しの工夫で楽しい遊び場になることを実感してもらうことで、風の子太陽の子広場の魅力の再発見にもつなぐことができました。

9 目標達成

事業の目標：

- ① 毎回 20 名の子ども・親子を迎え、自然の中であそぶ楽しさ、火・水・土とあそぶという直接体験と出会うことを提供します。
- ② 子ども達の想像性・創造性を引き出し、主体的な遊びにつながる関わりをスタッフがすることで、子どもの非認知能力の育成に努めます。

目標の達成具合：

計 8 回の開催でのべ 333 名の子ども、親子に参加してもらえました。

保護者同士の口コミも大きく、家族同士で誘い合っただけの参加者も多かった。遠くは世田谷区から複数回の参加もあるなど風の子太陽の子広場の魅力の再発見につながったようです。

子ども達の遊びも、例えば段ボールの滑り台をすべるだけでなく、滑って中々登れないことを楽しむ、助け合う、引きずりおろす、などいろいろな遊び方をしていました。決まったあそび方ではなく、遊び道具それぞれの特性を利用した遊びがいろいろと広がりました。子ども達の好奇心を用意した道具から引き出し、子ども達が終始、主体的な姿勢であそぶためのアプローチや空間づくりができました。

10 事業の実施内容

毎回 焚火、木工作、段ボール滑り台、お絵かき、ハンモック、コマ、ボールなどの遊び道具を用意。林や沢での虫取り、雑木林の散歩、おしゃべり、昼寝、パチンコ、などの自分のやりたいこと、キャッチボール、鬼ごっこ、みんなで探検など、コミュニケーションの中で始まる遊びなどがおこなわれました。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	3	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

毎回想像を超える参加者があり子ども達の自然体験、遊び体験に対する要求の多さを実感することが出来ました。プレーパークは特別な活動ではなく子ども達の日常の一部として気軽に遊びに来られる場所であることが望ましいです。より日常の活動に近づけて行けるように、今後も青梅市と連携しながら大きく広げて行けたらと思います。

13 その他